

図書館情報メディア研究科修士論文

新海作品の若者の受容に関する日中比較
—映画『君の名は。』を中心に—

2021年03月

201821646

駱 泓

新海作品の若者の受容に関する日中比較 — 映画『君の名は。』を中心に —

The Comparison on the Acceptance of Makoto Shinkai's Films, Focusing on Your Name by Young Japanese and Chinese

学籍番号:201821646

氏名:駱 泓

Luo Hong

近年、日本アニメ映画が日中の若者の間で人気を博している。なかでも、2017年に日本の歴代邦画興行収入ランキング第2位となった新海誠の『君の名は。』は、中国で日本映画の年間興行収入ランキング第1位であった。それまでの作品と一線を画したこの作品の公開により、新海誠のファンが10万人から200万人に増加した一方、批判も殺到した。

日本アニメの中国での受容に関する研究として、遠藤（2008）は日本アニメが中国の青年たちの精神形成に大きな影響を及ぼすと論じた。また、新海作品に関する研究は、Zahlten(2019)、木村（2016）等があるが、新海作品の「男女の出会い・すれ違い」「文芸性」などに感動する基礎となる、受け手のライフストーリーは調査されなかった。そのため、日中を席卷した『君の名は。』ブームの理由を先行研究は必ずしも説明できていない。また新海誠が影響を受けた作品には「滅びの美」を備えたものが多い。『君の名は。』も日本をモチーフとし、滅びの美を備えた映画であるのに、文化的背景の異なる人々に受け入れられたのはなぜか、特に新海作品における「報われない恋」「閉ざされた恋」は高校時代の恋愛経験によって捉え方が変化するのか、調査した研究はない。

そこで本研究は、質的調査の手法を用い、ライフストーリーに基づいて、中国の若者が①日本の高校生活をモチーフにし、②滅びの美を意識した日本映画をどのように受容しているのかを明らかにすることを目的とする。本研究では、調査対象者（日5名、中7名）を古参ファン・新規ファンの縦軸と、中国人・日本人の横軸からなるマトリックスで分け、さらにブルデューのいう文化資本の議論を補助線として分析、考察する。

結果として、まず②滅びの美の捉え方は、日中の差よりも新規ファンと古参ファンの差が大きいことがわかった。古参ファンは商業主義に巻き込まれた『君の名は。』より『秒速5センチメートル』を高く評価した。また桜が散る場面の強調等、後者の方が前者より滅びの美を強く打ち出していて、その場面を良いという人が古参ファンには多いため、彼らは新海作品の滅びの美を理解しているといえよう。しかも、文化資本を備えるファンは持ち前の鑑賞力によって新海作品に文学性を見いだしたり、アニメ映像を玩味したり、技術批評さえしたりする傾向がある。次に、①の高校生活は、日中で大きく差があり、その差を中国の調査対象者は強く意識しており、彼らは基本的に日本の高校生の青春に憧れる気持ちが強い。また、日中の古参ファンは新海作品の「恋」を純粋な恋愛として捉えた。

考察として、中国では新海作品は『君の名は。』しか上映されていないが、中国の古参ファンが、過去の新海作品を海賊版等で見て、それに関するサイトを検索して、そこで日本通の人から紹介された日本文化・思想の概要を入手してきたため、②の滅びの美において日中の差よりも古参新規の差の方が大きくなったと考えられる。中国ではコンテンツに対する政府のコントロールが厳しく、海賊版を視聴する人は規制遵守よりも見たいという気持ちを優先させる人と考えられる。教師や親による高校生の恋愛へのコントロールも規制の一種である。それゆえ、海賊版等で視聴してきた人は高校時代に恋愛した人が多く、なおかつ、大っぴらに恋愛できる日本の高校生活に憧れる人が多かったのではないのかと推測できる。

研究指導教員：後藤 嘉宏
副研究指導教員：照山 絢子

新海作品の若者の受容に関する日中比較
—映画『君の名は。』を中心に—

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2021年3月

駱泓

目次

第1章 序論.....	6
1.1 研究背景とその問題提起	6
1.1.1 中国で上映された日本アニメ映画の増加と日中を席卷した『君の名は。』 ..	6
1.1.2 前作と一線を画した『君の名は。』とそれへの毀誉褒貶	6
1.1.3 新海誠の文化資本と彼の作品	7
1.1.3.1 新海誠と彼の作品に見られる文化資本	7
1.1.3.2 思春期男女恋愛	8
1.1.4 問題提起	8
1.2 先行研究.....	9
1.2.1 中国における日本アニメ映画についての研究	9
1.2.2 新海作品の受容に関する調査・研究	9
1.2.2.1 日中の国境を越えた『君の名は。』のブームに関する研究	9
1.2.2.2 日本における『君の名は。』の受容に関する調査	9
1.2.2.3 中国における『君の名は。』の受容に関する研究	10
1.2.2.4 先行研究の限界	11
1.2.3 滅びの美についての美学研究	12
1.3 研究目的.....	12
1.4 用語定義	12
1.4.1 若者	12
1.4.2 滅びの美	12
1.4.3 新海作品	12
第2章 調査概要.....	15
2.1 調査方法	15
2.2 調査内容	15
2.3 調査対象者	15
2.4 調査倫理	15
第3章 調査実施概要.....	17
3.1 調査対象者概要	17
3.2 質問項目	17
3.3 インタビュー結果・分析	18
3.3.1 Aさん	19
3.3.2 Cさん	21
3.3.3 Dさん	22
3.3.4 Eさん	26
3.3.5 Fさん	27
3.3.6 Gさん	30
3.3.7 Hさん	30
3.3.8 Iさん	33
3.3.9 Jさん	35
3.3.10 Kさん	36

3.3.11 Lさん	38
3.3.12 Nさん	40
第4章 考察	42
4.1 古参ファンと新規ファンとの受け取り方の比較	42
4.1.1 「より好きな新海作品」における齟齬	43
4.1.2 『君の名は。』の前作をより高く評価した理由の分類	43
4.1.3 滅びの美に関する意識における齟齬	45
4.1.4 古参ファンの文化資本を見出せる	45
4.2 高校生活について	46
4.2.1 見たい気持ちを最優先に	46
4.2.2 新海作品のファンの恋愛観における学歴への捉え方	46
4.3 アニメ映画の文学性と民主性	48
4.3.1 限界ありの民主性とその点火の役割	48
4.3.2 アニメ映画の文学性	49
第5章 結論	50
5.1 結論	50
5.2 謝辞	50
5.3 参考文献	50

第1章 序論

1.1 研究背景とその問題提起

近年、日本アニメ映画が日中の若者の間で人気を博している。なかでも、2017年に日本の歴代邦画興行収入ランキングの第2位となった新海誠の『君の名は。』は、中国での日本映画の年間興行収入ランキングでは第1位であった。それまでの作品と一線を画した『君の名は。』の公開により、ファンが10万人から200万人に急増した一方、批判も殺到した。¹

1.1.1 中国で上映された日本アニメ映画の増加と日中を席卷した『君の名は。』

近年、中国では日本アニメ映画の公開が急増している。2006年から2015年までの10年間、中国で公開された日本映画はわずか17作品にとどまっていた。しかし、2016年に、その数は一挙に過去最高の11本に増えた。

そのなかでも、新海誠の『君の名は。』は、2016年12月に中国で公開され、大ヒットとなった、2017年2月に中国全土で上映が終了し、その時点で中国での興行収入が日本円にしておよそ95億円を超えた。『君の名は。』は、2017年の中国の映画の年間興行収入ランキングでは25位で、中国で放映された日本映画では第1位であった。²

日本でも、2017年7月に、『君の名は。』の日本国内の興行収入が250億円となったことが発表された。『君の名は。』は、日本における歴代の邦画の興行収入ランキングでは、第3位となった。³

1.1.2 前作と一線を画した『君の名は。』とそれへの毀誉褒貶

新海誠へのインタビューによれば、彼は『君の名は。』を制作した際、作品のエンディングに対する視聴者の好みの変化しつつあることに気付いたという。このような視聴者の好みの変化を受けて、新海誠は『君の名は。』以前の作風とは異なる作品を作ろうと試みたようである。

新海誠は以下のように語っている。

僕がこう今観客はなにを見たいかを考えながら映画を作っているような気がす

¹ “『天気の子』新海誠監督「何か大きな石を投げてどんな模様の波紋が立つのかを観測するような、エンタメとしては王道だけど、予定調和ではなく賛否分かれる映画です」”. 武松佑季. 2019/08/12.

<https://wpb.shueisha.co.jp/news/entertainment/2019/08/12/109509/>
(2021/01/01 参照)

² “「君の名は。」中国興収が日本映画で歴代1位に 2016年アニメ映画で4位”. Tadashi, sudo. 2016/12/18. <http://animationbusiness.info/archives/1606>
(2021/01/01 参照)

³ “「君の名は。」興行収入250億円突破 今期は予約好調のDVD・Blu-rayに期待”. Tadashi, sudo. 2017/07/25. <http://animationbusiness.info/archives/3487>
(2021/01/01 参照)

るのですが、社会が変われば、自分が作るものが変わると思うのですよ。まあ、『秒速5センチメートル』を作っていた2007年2008年ぐらいは完全なハッピーエンドじゃないものを彼らが求めていた気がしていたのです。でも、日本では2011年に大きな地震が、地震が大きくて、それ以後もいくつかの災害がありますけれども。なんか、こう悲しいエンディングを求めないように変わってきたような気がしますね。僕自身はこうやはり、良かったねと最後まで見て、明るい気持ちで映画館を出るのをみたい気持ちにだんだんなってきましたし。⁴

また、新海誠はインタビューで『君の名は。』の制作過程を振り返った時に、「作っている最中から“文句なく面白い”と思ってもらえる。(中略)結果的には、すごく文句や批判も言われたんです」と語った。ファンが10万人から2000万人に増加した一方、「文句なく面白い作品だと思ってもらえる」と言った彼の予想とは反して、批判も殺到したことが分かった。

1.1.3 新海誠の文化資本と彼の作品

1.1.3.1 新海誠と彼の作品に見られる文化資本

以下では、フランスの社会学者ピエール・ブルデューによって提唱された文化資本の視座を軸にして、文化・コンテンツ生産者としての新海誠と彼の作品を醸成させた彼の学歴や文化的素養等とそれに見られる「滅びの美」との関連性の把握を試みたい。

ブルデューによれば⁵、文化資本は経済資本のように、数字で定量とされないが、金銭財力のように、社会生活において、一種の資本のように機能している文化的要素のことである。しかも、文化資本の概念は、蔵書等としての「客体化された形態」、学歴等としての「制度化された形態」、言語の使い方や美的趣向や読書経験等としての「身体化された形態」という3つに整理できる。ここでは、主に新海誠の「制度化された形態」と「身体化された形態」に着目して彼と彼の作品に見られる文化資本を見いだしていこうと思う。

新海誠は1973年2月9日に生まれて、本名が新津誠であり、中央大学文学部を卒業し、日本のアニメーション監督や小説家として知られている。彼は大学時代、永井荷風をテーマに卒論を書いた。また、新海誠へのインタビューによれば、彼が拒否されていた主人公の恋愛経験を描くことに影響がある作品について、新海誠は、以下のように語った。⁶

⁴ “新海誠现场演绎《天气之子》名台词：呐~现在要开始变晴了哦~ 【bilibili 星访问第54期】”. bilibili 星访问. 2019/11/04.

<https://www.bilibili.com/video/av74512158?from=search&seid=14180011775644600678> (2021/01/01 参照)

⁵ 石井洋二郎. 差異と欲望：ブルデュー『ディスタンクシオン』を読む. 藤原書店, 1993, P24-26.

⁶ “The Garden of Thoughts: An Interview with Makoto Shinkai”. GENDOMIKE. 2013/07/10. <https://animediet.net/conventions/the-garden-of-thoughts-an-interview-with-makoto-shinkai> (2021/01/01 参照)

— : Speaking of ko-hi, are you influenced by the “Tora-san” series of films? They are about a man who is always turned down by the main woman in the end.

新海誠 : No, actually I’ m not influenced by Tora-san either, I have never watched those movies. But I do love stories where the character always gets turned down. Speaking of getting turned down, there are a lot of novelists that I like who write that type of story, but if I had to choose one, I love Mitsuyo Kakuta, a female novelist. She is a writer of “real” or “pure” literature—not light novels, but “real” prose novels like those by Yukio Mishima. Kakuta has a collection of short stories where a character gets turned down, and I love it. But the thing about getting rejected is that you reflect and think and analyze about why you got turned down. You learn a lot more from stories about getting rejected than stories about becoming happy. That’ s why I prefer those stories.

(和訳抜粋 : 「私は主人公が振られる物語がとても好きですね。振られる物語といえば、そういった物語を書いている、好きな小説家さんがたくさんいます。ただもしその中から一人を選ぶのなら、私は、女性小説家の角田光代さんが好きですね。彼女は“真実”や“純粋な”文学をお書きになっている小説家です。彼女の文学はライトノベルではなくて、しかも、“真実”の散文小説は三島由紀夫のものに似ているんですよ。」 : 新海誠 談)

新海誠自身は三島の影響を受けていないとは言えない。ここで新海が言及しているのは、①登場人物が誰かに振られる物語が好き、そして、②特に角田光代の小説が好き、③角田光代が書いた登場人物が振られるような短編集が好き、である。角田光代はライトノベル作家ではなく、新海のいうには三島由紀夫に似た純文学作家であるとされている。新海誠の読書経験を踏まえると、彼の映画製作の過程では、三島由紀夫の小説から無意識に影響を受けていたことがわかった。「終わりの美学」「散り際の桜の美しさ」を論じた三島由紀夫は日本の特有の考え方「滅びの美」の代表的な作家である。よって新海誠と彼の作品においては「滅びの美」が見出せるのではないだろうか。

1. 1. 3. 2 思春期男女恋愛

新海作品はよく「男女のすれ違い・報われない恋」や「モテない男の心境」を上手に描いたアニメ映画として世の中に知られている。また、人々に美しいものとされる恋の滅びも前述した「滅びの美」に該当すると考えられる。

1. 1. 4 問題提起

後述する 1. 4. 3 のような新海作品に関する詳細な紹介にも触れつつ、上記の背景を受けて、幾つかの疑問が生じた。

新海誠作品における「男女のすれ違い・報われない恋」や「モテない男の心境」と、「滅びの美」や、彼の劇作家・作家としての経験と国文学専攻出身が内包された作品の文

芸性、ならびに日本における高校生活を舞台にした物語はどのように受け手に捉えられるのかという点である。特に高校での生活スタイルなど、日中で文化的背景が異なるにも関わらず同様に受け入れられているのはなぜかという点に関心が生じた。

1.2 先行研究

以上の問題意識から、それに関する先行研究を以下のように整理・分析する。

1.2.1 中国における日本アニメ映画についての研究

中国での日本アニメの受容に関する受け手の研究では、遠藤（2008）が、日本アニメは中国の青年たちの精神形成に大きな影響を及ぼすに至っていると論じた。しかし、中国での『君の名は。』ブームの実態については、この研究では必ずしも説明できない。というのも、遠藤は一世代前の若者を対象とした調査をし、しかも、連続 TV アニメ作品の影響に関する調査しか行っていないからである。

1.2.2 新海作品の受容に関する調査・研究

新海誠のアニメ映画作品は時間の順に追って、次のようになる。『ほしのこえ』（2002年）、『雲のむこう、約束の場所』（2004年）、『秒速5センチメートル』（2007年）、『星を追う子ども』（2011年）、『言の葉の庭』（2013年）、『君の名は』（2016年）、『天気の子』（2019年）である。こうした作品の中でも、メディア研究者によってよく研究されているのは『君の名は。』である。

1.2.2.1 日中の国境を越えた『君の名は。』のブームに関する研究

Zahlten(2019)は、Andrew Hoskins が提唱した、「集合的記憶」と区別される、J・アーリによって提起された社会学の文脈から、メディアのモビリティ性からの影響が強調された「連結された記憶」(connected memory) という視座から、「メディア化された記憶」という概念を用いた。そして、中国で公式的に放映され、好ましい興行収入を記録した日本アニメ映画『君の名は。』と『STAND BY ME ドラえもん』の事例を分析して、日本アニメ映画による東アジアでの結合された記憶を検証した。しかし、この研究は新海作品の内容と関わる高校生活における日中の差異を意識していない。加えて、日中に共通した大ヒットの事情を「共通している記憶」に理由を求めて捉えているが、『君の名は。』に対する毀誉褒貶については意識されていない。

1.2.2.2 日本における『君の名は。』の受容に関する調査

学術研究に相当するとは言えないが、日本における『君の名は。』の受容に関する様相を説明する調査として2つが挙げられる。フィールズ株式会社の研究部門である「フィールズ総研」による『Fields Yoka Survey 2016年』と、株式会社 TesTee (テストイー) による『君の名は。』についてのアンケート調査である。

まず、⁷2016年12月14日から21日までのフィールズ総研が実施した余暇行動の実態や背景にある価値観に関するウェブアンケート調査がある。日本全国の6～69歳の男女1万

⁷ “君の名は。：ヒットの原動力は高校生 3割が劇場に足運ぶ”. mantanweb. 2017/06/09.

1646 人にアンケート調査を行った。その結果、『君の名は。』の鑑賞者は全体の 11%であり、さらに、鑑賞者の 75%は『君の名は。』が好き」と回答した。しかし、具体的に『君の名は。』を好きまたは嫌いと評価した理由は示されていない。また、鑑賞者の属性について、新海誠の新規ファンか古参ファンかといった点は提示されていない。

次に、株式会社 TesTee (テストイー)⁸による日本全国の 10 歳から 20 歳までの若年層における『君の名は。』の受容についてのウェブアンケート調査が挙げられる。『君の名は。』をすでに見た人に感想を調査したところ、約 8 割が「かなり良かった」と答えた。その理由として、映像・音楽・ストーリーが特に高い評価を受けている様子が分かった。また、『君の名は。』を「見た」「見る予定がある」と答えた人は 55%で、そのうち、アニメ映画より実写映画好きと答えた人は 42%であった。また、「君の名は。」に「見た」「見る予定がある」と答えた人たちのほうが、見る予定がない人たちに比べて、恋人がいる割合が約 10%高いということが分かった。しかし、なぜ実写映画好きの人でも『君の名は。』を「見た」「見る予定がある」と回答しているのか、なぜ恋人がいると回答した人の方が、『君の名は。』を「見た」「見る予定がある」と回答しているのかについては、理由は提示されていない。

1.2.2.3 中国における『君の名は。』の受容に関する研究

新海作品に関する研究では、木村 (2016)、南、郭 (2018)、万、羅 (2018) 等があるが、受け手に対して調査を行っていない。

次に、中国において『君の名は。』が受容された理由に関する研究である。新海作品に関する作品内容の研究では、新海作品と滅びの美の繋がりの可能性に言及した研究はない。中国において『君の名は。』が受容された様相について、万、羅 (2018) の研究では中国での『君の名は。』の視聴者は 68%が 25 歳以下であること、女性の割合が男性より高いと述べられている。さらに映画のストーリーが主人公の身体の入替わり、恋愛、宿命に関する物語であることが、若者の好みに合致していると分析している。また、若者は自身の恋愛経験を踏まえて、ストーリーに共感できると述べている。しかし、この研究では受け手についての調査を行っていない。

また、万、羅 (2018) が論文中で引用したデータはオリジナルデータではなく、『人民日報』のジャーナリストのデータである。さらに、ここで使われているデータは『中国新聞網』に掲載されたもので、統計自体の母集団の情報が一切明記されておらず、根拠に乏しい主張である。また、この研究は、『君の名は。』は音声と画像がシンクロする場面と音声と画像の乖離が起こる場面があり、アニメーション映画の表現技法として優れている、と述べている。加えて『君の名は。』は音声と画像の表現が優れているため、視聴者はアニメ映画に登場する人物、場所、時間、出来事は実際に存在するよう感じることができるとも主張している。しかし作品の視聴者・受容者に対して、インタビューをしておらず、文化的な背景の異なる中国の若者がどのように日本の映画を受け入れたのかを明らかにできていない。

<https://mantan-web.jp/article/20170609dog00m200012000c.html> (2021/01/01 参照)

⁸ “「君の名は。」が多くの若年層を惹き付ける魅力とは・・・?” . 高山直人, 2016/10/03. <https://lab.testee.co/kiminonaha-result> (2021/01/01 参照)

南、郭（2018）は『君の名は。』の中に登場する、ロープの結び、口嚙み酒、かたわれ時などのイメージシンボルに焦点を当て、映画に出てくる日本の「結び」という概念を解釈した。そうした表象が可能になるのは、新海誠が子供の時からSFや宇宙関係のものが好きだったという読書経験や、広告代理店やゲーム関係の企業で働いていた経験が関わっていると主張した。こうした研究は、「結び」の概念に焦点を当てて映画の内容を分析しているといえる。しかし、恋愛、青春、滅びの美学など、この作品において重要なテーマについては考察していない。例えば、「かたわれ時」は「かわたれ時」と「片割れ星」を掛けた造語であり、たそがれ時と作品の根幹にある彗星落下による村の破壊という滅びの美学が込められていると考えられるが、この研究では、「かたわれ時」を単に「結び」にのみ捉えている。この映画のストーリーにおいて、彗星落下による村の破壊は重要なモチーフであることから、滅びの美学という点からこの映画を分析する必要がある。また、南、郭（2018）は、新海誠の読書経験が彼の映像表象を可能にする一因として分析したが、新海誠の読書経験から新海誠の文化資本に関する属性が無視されている。

1.2.2.4 先行研究の限界

アニメ映画作品の良し悪しの判断は受け手に委せられて、毀誉褒貶は当然ありうると考えられる。というのは、中井正一の映画論⁹によれば、映画は極めて民主的な媒体で、映画が全てのカットから成り立ち、カットを繋げる部分への判断や評価が受け手に委ねられるからという論考にも表れている。

だが、新海誠の『君の名は。』ブームに関する研究では、新海作品が一躍有名となったことから、日中の国境を越えた影響力が研究者に意識されている。それらによって例えば、『君の名は。』への褒め・貶しが両立する事象が看過されたとも言える。

また、文化・コンテンツ生産者としての新海誠の読書志向、広告コンテンツ制作経験などの個人の文化的な背景に言及し、それらが彼の作品の影響力を及ぼした一因であると辿ったような研究もなされていない。

加えて、読書経験などの個人の文化的な背景が持つ役割を分析したブルデューの文化資本を考慮すれば、本テーマはこの議論の射程に括られると言える。しかしブルデューの文化資本の議論に触れながら検討された研究はない。

前述した通り、受け手の琴線に触れた新海作品に関する先行研究は、新海作品の「男女の出会い・すれ違い」「文芸性」などに感動を覚えたことについて、その基礎となる受け手のライフストーリーとそれに見られる文化志向を踏まえずに行われたことが分かる。それゆえ、日中を席卷した『君の名は。』ブームの理由については、前述の先行研究は必ずしも適切に説明できていない。他方、インタビューで新海誠自身が影響を受けたと語る作品には「滅びの美」を備えたものが多い。『君の名は。』は中国と大きく違う日本の高校生活をモチーフにし、滅びの美を備えた映画であるが、文化的な背景の異なる人々に同じように受け入れられたのはなぜか、特に新海作品における「報われない恋」「閉ざされた恋」は高校での恋愛経験の有無によってどう捉えられるのか、について調査した研究は見受けられなかった。

⁹ 久野収編. 中井正一全集. 美術出版社, 1981, 68p.

1.2.3 滅びの美についての美学研究

河村（1993）¹⁰によれば、三島由紀夫の著作には滅びの美の特性がある。三島由紀夫のエッセイによれば¹¹、恋の終わり方には滅びの美があるとされる。

1.3 研究目的

本研究は、質的調査の手法を用い、ライフストーリーに基づいて、中国の若者が①日本の高校生活をモチーフにし、②滅びの美を意識した日本映画をどのように受容しているのかを明らかにすることを目的とする。

本研究では、調査対象者（日5名、中7名）を古参ファン・新規ファンの縦軸と、中国人・日本人の横軸からなるマトリックスで分け、さらにブルデューのいう文化資本の議論を補助線として分析、考察する。

1.4 用語定義

1.4.1 若者

本研究では20代の青年たちを意味する。

1.4.2 滅びの美

人や集団がみせる、散り際の美しさのこと。それを表象にした具体的な様子として、散り際の桜、潔く切腹する、必死で行う心構えという武士道の精神があげられる。

1.4.3 新海作品

本研究で関わる新海作品は新海誠の長編アニメ映画になる。以下では、新海各作品の公式サイトに掲載されたあらすじを参照しながら、作品の内容をまとめたものである。

(1) 『君の名は。』¹²

『君の名は。』は、2016年に公開された新海誠監督による日本のアニメーション映画である。この映画は東京に暮らす少年と山奥で暮らす少女の身に起きた「入れ替わり」という謎の現象と、1200年ぶりに地球に接近する彗星をめぐる出来事を描いた。

新海誠の作品の特徴として、滅びの美学、作品新海誠自身の青春コンプレックスがあるとされている。『君の名は。』にも本稿で主題とする滅びの美学が表現されているが、今までの新海誠の作品と比べると、その要素は少ない。

(2) 『君の名は。』以外の新海作品

『君の名は。』以外の新海作品の代表作として、『秒速5センチメートル』、『言の葉の庭』が挙げられる。

『秒速5センチメートル』の題意は散り際の桜の花びらが舞い落ちるスピードである。『秒速5センチメートル』は美しさと悲しさを完璧に描いた物語であり、

¹⁰ 河村政敏. 滅びの美学: 太宰治と三島由紀夫. 至文堂, 1992.

¹¹ 三島由紀夫. 新恋愛講座. 筑摩書房, 1995.

¹² “君の名は。” <http://www.kiminona.com/>. (2021/01/01 参照)

2007年に公開された新海誠監督による日本のアニメーション映画である。映画のモチーフは1990年代から2000年代にかけての日本で、「桜花抄」、「コスモナウト」、「秒速5センチメートル」という3本の連作である。2007年2月16日から3月3日にかけて相次いで配信された¹³。そこでまずこれら連作一つずつのあらすじを示す。



図1：『秒速5センチメートル』¹⁴

「桜花抄」は、男性主人公である貴樹と彼の仲良しの小学校同級生である明里に関する少年少女の恋愛物語である。「桜花抄」という作では、貴樹が転校した明里と手紙で文通し、気持ちを打ち明ける描写がある。新幹線で明里に会いに行く日、大雪の影響で止まってしまった電車に残された主人公の心の無力さに対する描写は、やっと目的地にたどり着いた主人公と待合室でずっと待ち続けた明里とが桜の木の下で唇を重ねる瞬間の美を引き立たせた。

「コスモナウト」では鹿児島に引っ越した主人公が、再び明里に会うことができず思いを抱き続け、高校のクラスメートの花苗の思いに気づかず、傷つけてしまう物語である。「秒速5センチメートル」は社会人になった主人公が明里をずっと忘れずに過ごしている物語である。主人公は明里と離れてからも、ずっと彼女をどこかにいるかのように探していた。初恋を忘れられない彼は明里を守れる力を追い、高みを目指そうとする。しかし、どれぐらい頑張っても、明里との距離は秒速5センチメートルの速度でしか近づいておらず、また会うことが出来ない。そして桜の木の下での出来事を昨日ごとのように思いつつ生きている。

『言の葉の庭』¹⁵は雨の日の男子高校生と女性教師が恋をぶつけ合う物語であり、2013年5月31日より日本・中国大陸で同時公開された新海誠監督のアニメーション映画である。靴職人を目指す高校生の主人公秋月孝雄は雨の日の1限の授業をさぼり、庭園で靴の設計を考え、朝からビールを飲んでいる女性雪野百香と出会う。ここ

¹³ “秒速5センチメートル”. <https://www.cwfilms.jp/5cm/>. (2021/01/01 参照)

¹⁴ <https://s.yimg.jp/images/evt/5cm/kabegamill.jpg>. (2021/01/01 参照)

¹⁵ <https://www.kotonohanoniwa.jp/> (2021/01/01 参照)

から2人の交流が始まり、お互いに好意を持つに至る。靴作りの本をもらった孝雄は雪野のための靴を作った。梅雨があけ2人はしばらく別れるが、雪野が同じ学校の古文の教師で、生徒の嫌がらせで退職したことを知った。孝雄は首謀者に返り討った。土砂降りにあいつつ再会した日、雪野のマンションで向き合う2人はずっと心に募らせていた強い思いをぶつけ合い、恋をする。

第2章 調査概要

2.1 調査方法

本研究では、半構造化インタビューによる質的調査の方法をとる。『君の名は』を見た中国人視聴者と日本人視聴者を対象とし、スノーボールサンプリング法によって協力者を集めた。10-20名を対象に可能な限り複数回質問した。スノーボールサンプリング故、調査対象者の性別、年齢は特に問わなかったが、この映画の視聴者の特質から考えて、10代後半から20代の男女となる可能性が高い。新海誠の古参ファン、新規ファンを日中両国、ほぼ均等数、聞き取ることを目標とした。初回は答えやすい質問のみにとどめ、二回目以降プライベートな内容に及んでいくように配慮する。

調査は今般の新型コロナウイルスの問題が続く限り、ZoomやSkype等を用いつつ、リアルタイムのオンライン方式で行う。なお、同一調査対象者への2回目以降の調査については、場合によってメール等で行う場合もある。

2.2 調査内容

本研究では、調査対象者のライフストーリーに基づいて、質的調査の手法を用い、中国人若者が日本の高校生活をモチーフにし、滅びの美を意識した日本映画をどのように受容しているのかを、日本人の若者の視聴者との比較によって、明らかにすることを目的とする。

本研究では、調査対象者（日5名、中7名）を古参ファン・新規ファンの縦軸と、中国人・日本人の横軸からなるマトリックスで分けて分析、考察する。

2.3 調査対象者

本研究は、『君の名は。』が好きな日中若者の視聴者を対象とし、スノーボールサンプリング法によって協力者を集める。

2.4 調査倫理

調査対象者に対し、調査目的、調査方法、調査期間、収集データの利用、結果の公表の仕方、結果の管理の仕方、途中で調査の放棄が可能であることについて事前に説明し、同意を得た上でインタビュー調査を行う。調査への協力を拒否する自由についても事前に説明し、調査に伴うメモや録音機器の利用、収集データの利用、公開内容について了承を得る。調査時及び論文執筆時においては、人権擁護を十分に行い、調査対象者が損害を被ることのないよう最大限配慮する。

得られたデータは厳重に管理し、研究者本人以外に流出することのないよう、研究者本人がパスワードをつけたUSBメモリーにて、鍵のかかる引き出しで保存する。成果の公表後は個人が特定できないように再加工した上で1年間研究者本人が保管し、その後破棄する。なお、筑波大学の教員等と連名で学会発表等する際は、発表後さらに10年間保管する。

調査対象者の匿名性に十分配慮し、Aさん、Bさん、Cさんというように、個人が特定されない形で、修士論文という形で公表する。なお、修士論文提出後、速やかに調査対象者に礼状とともにその pdf を送り、一定の期日までに個人情報保護上問題がないかを聞き、ウェブ公開版のメ切の前に必要に応じて修正をする。

第3章 調査実施概要

3.1 調査対象者概要

表1は、調査対象者の性別、国籍、インタビュー当時の職業、インタビューの実施日付を示したものである。なお、調査対象者は表1の左側に示したアルファベットで表す（以降も同様の形とする）。

表1：調査対象者の概要

	性別	国籍	インタビュー 当時の職業	インタビュー年月日
Aさん	男性	中国	大学院生(博士)	2019/12/20
Cさん	男性	中国	大学院生	2019/12/2
Dさん	男性	日本	大学院生	2019/11/7
Eさん	女性	日本	大学院生	2019/11/1
Fさん	男性	中国	大学院生	2019/11/2, 2019/12/7
Gさん	女性	中国	公務員	2019/12/7
Hさん	男性	日本	大学院生	2019/11/10, 12/9
Iさん	男性	日本	大学生	2019/12/27
Jさん	男性	日本	社会人	2020/10/25, 12/10
Kさん	男性	中国	社会人	2020/2/25, 10/10
Lさん	女性	中国	社会人	2020/11/21, 12/1
Nさん	女性	中国	大学生	2020/11/25, 12/15

(筆者注：Eさんは国籍が日本であるが、小学1年生の時から大学3年まで、中国で育った。)

3.2 質問項目

(1) 新海作品に接触した経験について

調査対象者に、『君の名は。』と『君の名は。』以外の新海作品に接触した経験と、新海作品を見てからの感想について質問した。具体的には、新海作品と接触したきっかけは何であるか、『君の名は。』より前の新海作品から新海作品を見るかどうかについて語ってもらった。

また、『君の名は。』と『君の名は。』以外の作品を見た感想・評価について語ってもらい、特に新海作品間の繋がりに関する考え方、新海作品に惹かれた理由について探った。調査対象者の文化志向を参照するため、彼らに新海作品をめぐるグッズ、書籍やDVDなどを持っているかどうかについても聞いた。

(2) 高校生活に関するライフストーリー

調査対象者に、高校生活に関するライフストーリーを語ってもらった。具体的には、高

校時代に恋愛経験やバイト活動や塾に通った経験があるかどうかである。また、恋愛とバイトが学級担任・校則によって禁止されているか、勉強への両親の態度、高校生恋愛への両親の寛容度、高校時代恋愛のための両親との迷惑関係の有無について質問した。特に、恋愛が責められる土壌の有無（例えば、親に迷惑かけてしまったと反省した経験）といった内容を探った。

(3) 滅びの美に関する意識

調査対象者に、滅びの美への意識について質問した。具体的には、散り際の桜や、サイバーパンクや、廃墟や、ノスタルジックや、作品のエンディングに関する趣向・考え方を、その基礎となる経験とともに語ってもらった。特に、調査対象者に悲劇やアンハッピー・エンディングの作品を見ることが好きであるかどうか、滅びの美を表象にしたものに関する感想を詳細に訊いた。

(4) その他

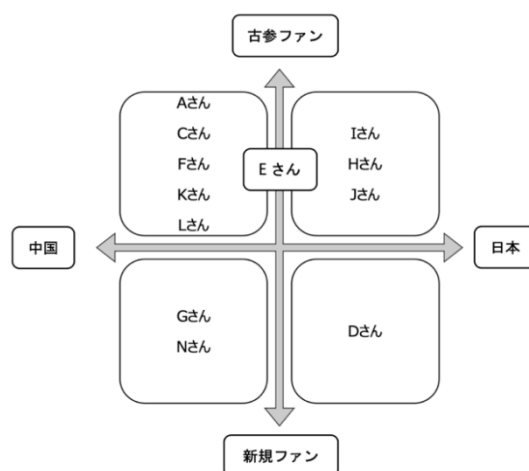
調査対象者の成長過程のエピソードや、家庭環境や、作品嗜好など、(1)～(3)の内容と関係の深そうな語りをライフストーリーとして収集した。具体的には、調査対象者にアニメ映画を見る際、共感できる場合が多いか、距離を置いて他人の物語だと思うのか、外に開かれた人間関係の有無、震災後の絆の有無、閉ざされた恋愛・初恋への執着の有無を訊いた。また、青春に関する個人の考え方を語ってもらった。

3.3 インタビュー結果・分析

各調査対象者へ実施した半構造化インタビュー調査の結果・分析を以下にまとめた。

調査対象者各々の語りをもとにして、彼らを新海作品の新規ファン（筆者注：『君の名は。』から新海作品に触れた人、及び『君の名は。』のみ新海作品に触れた人）と古参ファン、という二つのカテゴリーで分けて分析・考察を行うこととした。

古参ファン・新規ファン（『君の名は。』から新海作品に触れた人、及び、『君の名は。』のみ新海作品に触れた人）の縦軸と、中国人・日本人の横軸からなるマトリックスで分析する。このマトリックスは以下の図2のように表す。



3.3.1 Aさん

Aさんは、27歳の中国人男性である。Aさんは、学部は中国V大学の機械学専攻である。大学を卒業してから、日本のR大学の情報工学の大学院入学試験に合格し、2年間で修士を取った。現在、R大学の情報工学の博士2年生である。Aさんは、新海作品の古参ファンで、『君の名は。』より前の『秒速5センチメートル』から新海作品に触れてきた。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

中国人若者であるAさんは、学部生のとき、彼が工学の授業で友人に誘われ、一緒にiPadで『秒速5センチメートル』を見た。それについて、Aさんは

しかし、当時はまあまあと感じました。理由としては、授業時間が短かったので、映画の半分だけを見たというの也有ります。また、この映画を見た際に、授業のため、音声を流せなくて、さらに、日本語字幕だけがついているため、当時日本語がわからない私は、友人の翻訳を通じて、映画のストーリーを理解していききました。そして暇なある日、この映画を観終わりたいと思って、もう一度この映画を探し、一人で最後まで見終わりました。

と語った。また、Aさんは作品の終わりの志向について、「バッドエンド作品よりハッピーエンド作品が好き」という。このように、ハッピーエンディングが好きなAさんは音声と字幕を付けず、画面と映画のストーリーを把握した上、海賊版でアンハッピー・エンディング映画『秒速5センチメートル』を見てから新海作品に興味を持ち始めた。『秒速5センチメートル』は散り際の桜の滅びの美を描く映画である。しかしAさんは、アンハッピーエンドも好きではなく、桜を見ることが好きであるが、散り際の桜も好きではない。桜を見ることについて、Aさんは、

桜を見るのは好き。散り際の桜より、沢山の桜が咲いている様子が好き。枝垂れ柳みたいな桜。日本で初めて桜を見た。

と語った。また、Aさんは、『秒速5センチメートル』を見た感想とその映画に惹かれた理由について、以下のように語った。

『秒速5センチメートル』のストーリーは初恋をよく描いていたと思いました。映画の中の恋は甘ったるくて感動的だと思いました。一番印象残ったのは、映画の中での、主人公の心理活動をめぐる繊細な描写です。また、ストーリーの発展のため、前振り・下地がよく出来ていました。

Aさんの語りによれば、彼が『秒速5センチメートル』で惹かれたものは散り際の桜の滅びの美ではなく、「主人公の心理活動をめぐる繊細な描写」である。また、新海作品間の繋がりは何かという質問に対して、Aさんは、最初に、『君の名は。』と『秒速5センチメートル』は物語を伝える立場の違う新海作品であると述べた。具体的には、Aさんは、

『君の名は。』は主人公とヒロインの立場から物語を話すものである。『君の名は。』の表現手法はハッピーエンドの作品にふさわしい。『秒速5センチメートル』は男性主人公の立場から物語を伝えるものである。男性主人公の心理活動がよくできていると思う。『秒速5センチメートル』の男性主人公は草食系男性である。『君の名は。』の男性主人公は肉食系男性で、自ら動き出す。リア充っぽい。

と説明した。また、Aさんは、悲劇・喜劇の判断から、以下のように、『君の名は。』とその前の新海作品の違いを語った。

『秒速5センチメートル』と『言の葉の庭』は悲劇だと思い、それと比べると、『君の名は。』はハッピーなエンディングで納めまる。だから、『秒速5センチメートル』と『言の葉の庭』を見ないと、『君の名は。』は絶対普通のアニメ映画だと思われてしまう。

Aさんは、『君の名は。』より『秒速5センチメートル』の優れる理由が『秒速5センチメートル』の物語の視点にあるという。『秒速5センチメートル』の物語の視点は草食系男性主人公の眼差しを使っている。それゆえにこそ、『秒速5センチメートル』は繊細な心理描写が伝わってくる。また、Aさんは、『秒速5センチメートル』の心理活動について、

『秒速5センチメートル』にある主人公の心理活動に共感を覚えます。と述べた。『秒速5センチメートル』の主人公の心理活動に共感したAさんが、新海誠の作品に一番共感する点について、以下のように語っている。

青春の味。『スラムダンク』のように、青春のときに、人は必ず成功するわけではない。失敗することが多いのは、青春の真実だ。初めての交際もそうだし。女性は多分理解できないと思う。男にとっては、初恋は忘れられない存在です。初恋は報われないものです。これが、新海誠の作品に一番共感を持ったことです。

Aさんは、新海作品の視聴者として、新海作品は青春の真実を描くものであると考えている。この「青春の真実」は振れた主人公の恋愛経験（告白されたが断ったことや付き合っていたが自分から別れを告げたこと）である。Aさんに、『君の名は。』を見た経験・見た感想について質問した。この質問に対して、Aさんは、

『秒速5センチメートル』と『言の葉の庭』より、『君の名は。』はユーモアがあり、筋がよくまとまっており、少しの無駄もないです。

と述べた。Aさんは、『秒速5センチメートル』より、ユーモアがある『君の名は。』のストーリーは一貫性がある、という感触を持っている。さらに、Aさんは、

（筆者補：『君の名は。』は）田舎に住む少女と都市に住む少年の恋愛に関する話ですね。少女がとても頑張って都市に行き、少年はやる気がなく、ちょっとシスコンって感じです。ストーリーの中に、少女・少年が勇気を出し町の人を助けたことに感心しました。現在の若者は絶対に彼たちのように、遠くても走って他人を救わない。エンディングでは、二人のすれ違いが悲しいですが、新海誠のこれまでの作品を思い出させました。

Aさんは、『君の名は。』はその前の新海作品と違い、ハッピーエンディングで納まると考えている。しかし、『君の名は。』のエンディングにある二人のすれ違いの描写はAさんに新海誠のこれまでの作品を思い出させた。また、新海誠の作品のイメージは何か、という質問に対して、Aさんは「青春」と語った。Aさん、「主人公の心理活動」への肯定的な認識を踏まえ、『秒速5センチメートル』と『言の葉の庭』を比較する際に、ハッピーなエンドで納まった『君の名は。』の芸術性は『秒速5センチメートル』と『言の葉の庭』を超えないと語った。Aさんは、新海作品に好感を持っているので、来日後、新海作品に関連する周辺グッズ多く買った。具体的には、書籍バージョンの『言の葉の庭』、『君の名は。』『秒速5センチメートル』とその作品のジグソーパズルと写真を買った。滅びの美へ

の意識と紐付けず、散り際の桜の滅びの美を備えた『秒速5センチメートル』に惹かれた中国人古参ファンの志向が垣間見られる。

(2) 滅びの美に関する意識

中国人調査対象者の中で、『君の名は。』より前の作品から新開誠作品を見るAさんは、後述するCさん、Fさんと比べると、Aさんは滅びの美を備えた『秒速5センチメートル』が好き、肯定的に評価する。しかし、Aさんは滅びの美に関する意識が一番弱い。Aさんは、滅びの美を知らない。まず、桜を見ることについて、Aさんは、

桜を見るのは好き。特に、沢山の桜が咲いている様子。枝垂れ柳みたいな桜。
日本で初めて桜を見た。

と語った。また、Aさんは、作品の終わりの嗜好について、ハッピーエンディングの方が好きと語った。次は、滅びてゆくものの美しさを感じる、ノスタルジックな気分になれることについて、Aさんは、例としてコレクションを引き出しを取り、吟味したりすることをあげた。

(3) 高校生活に関するライフストーリー

Aさんは、高校のときに初めての異性と付き合った。初めて付き合った相手は同じ理系クラスのクラスメートである。大学以後、Aさんは初めての付き合った相手との距離間を感じるようになり、最終的には、初めての恋は終わりを迎えた。この初めての付き合いについて、Aさんは、

彼女は小さい頃父親をなくしました。そのせいもあって、私の母親が私たちの恋に賛成しなかったのです。母親の話聞いた上で、彼女との関係をもう一回振り返って、自分は彼女のことがそんなに好きではないことに気付きました。ただ彼女の可哀想なところに惹かれました。ちょうど、その時期、彼女は他の男に告白されました。そして、彼女と別れたって語りました。

と語った。Aさんの恋は両親に反対された経験があった。また、勉強面については、Aさんは中学生高校生の時、塾に通ったことがない。Aさんは、高校時代にバイトはしなかったが、バイトについて、「高校時代にアルバイトすることで社会を体験できるのはいいと思う。」と語った。

3.3.2 Cさん

Cさんは、23歳の中国人男性である。Cさんは、学部は中国B大学のマスコミュニケーション専攻である。現在、Cさんは大学を卒業し、ウクライナのX大学のマスコミュニケーション専攻の修士1年生である。Cさんは、新海作品の古参ファンで、『君の名は。』より前の『秒速5センチメートル』から新海作品に触れてきた。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Cさんは、新海誠の作品を見た経験について、以下のように語った。

新海誠の作品を全部見て、その中でも『秒速5』は100回以上見た。今も偶に見返している。そのテーマ曲も覚えている。『君の名は。』は70回以上見た。映画館で7回見た。

また、Cさんは『君の名は。』より、『秒速5センチメートル』100回以上見た理由について、以下のように語った。

『秒速5』は存在しうる現実世界を描いている。その不完全さは現実とマッチし

ている。当時、私は中学校 2 年生であったが、その前に見ていた作品は全部アメリカ式スーパーヒーロー系列のアクション映画と日本のハーレムアニメであった。その当時、追っている新番組もないため、ネットで評価の高い『秒速 5』を見ようとした。最後の別れざるを得ない恋人のストーリーは私にとっては、すごく斬新な感じだった。

かくして、当時中学生であった C さんは、アメリカのスーパーヒーロー系列のアクション映画と日本のハーレムアニメと変わった『秒速 5 センチメートル』を見て、新海作品に興味を持ち始めた。その中でも、当時の C さんにとっては、『秒速 5 センチメートル』の別れざるを得ない恋人のストーリーは斬新的なイメージであった。また、他の『君の名は。』より前の新海作品と『君の名は。』について、C さんは、以下のように語った。

『言の葉の庭』が好きな理由は、自分に勇気を与えてくれるからである。『君の名は。』は時間軸が優れていて、あの三年の差の設定があるおかげで、タイムパラドックスを回避できる。

(2) 滅びの美に関する意識

C さんは、中国人の古参ファンの中では、滅びの美の意識が一番強いと言える。C さんは、日本に旅行したことがあるが、日本で桜を見たことがない。また、中国で、C さんは桜を見たことがない。しかし、C さんは、好きな自然景色や建物の滅びの過程が好きである。C さんは、以下のように語った。

故郷の梯梧木が満開の姿より、散っている過程を見るのが好きである。しかし、落ちた花は歩行者や車に踏まれがちで、気分が悪い。また、イチョウと紅葉の葉が散っている姿も好きである。もう廃棄された製粉所を見る興味がある。廃墟された姿を見て、その人やマシンが転送された過程を想像することが面白い。チェルノブイリ原子力発電所事故の所在地を見る興味もある。廃墟を見る面白さは、この廃墟になっている過程を想像することにある。

(3) 高校生活に関するライフストーリー

C さんに、「高校時代の恋人を家に連れてきたことがあるかどうか」について質問した。C さんは以下のように語った。

自分は恋人がいることは絶対親に教えない。理由は、両親は私を理解できないから。彼らは私の感情ニーズを無視し、私に道理を説く。私がいい道を走り続けることを希望しているようだ。

3.3.3 D さん

D さんは、23 歳で、福岡出身の日本人男性である。D さんは、学部は日本 L 大学の環境科学専攻である。大学を卒業し、日本の R 大学の環境科学研究科の大学院入学試験に合格し、現在、R 大学の修士 1 年生である。D さんは、新海作品の新参ファンで、『君の名は。』から海誠作品に触れてきた。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

日本人若者である D さんは、新海作品に興味を持ったきっかけについて、

『君の名は。』は三回見た。1 回は映画館で、2 回目はレンタルで、3 回目は

バイリンガルマンガである。最初『君の名は。』を見たきっかけはCMを見た。『君の名は。』を見たきっかけはめっちゃ大ヒットだから。(笑)有名だから、知っていた。友だちを誘って、二人で見た。男の友人だった。

と語った。

Dさんは『君の名は。』が有名なので、映画を見た。しかし、Dさんは、『君の名は。』を見た後、『君の名は。』より前の作品について、あまり興味がなさそうに見受けられた。この原因について、Dさんは、以下のように語った。

—：どうして新海誠の前作を見たことがないのか。

D：どうしてだろう。なんと言うかな、新海誠さんのムービーがあまり。その『君の名は。』以外は、あまり情報が入って来なくて

—：情報って何を指しますか。

D：宣伝とか。

—：昔の映画だから、今は宣伝があまりないからですかね。

D：そうですね、だから、『秒速5』のことを知らなかったです。今新しい映画は宣伝しているから、知っている。

また、Dさんは、2回目のインタビューで、「普段、自発的に見たいなと思った映画があるか？」という質問に対して、以下のように語ってもらった。

—：普段、自発的に見たいなと思った映画がありますか？

D：ザ・ファブル

—：誰もおすすめしてくれないが、

D：そうそうそう

—：どうして見たい。

D：なんかね、映画館で広告を見て、それを見たいと思って。

—：広告の中の、何かに惹かれた。

D：ストーリー的な、ストーリーじゃないな。なんだろう。まず、主演の人。意外と、主演の人がいい人だったら、面白い映画が多い。映画館で、CMじゃん、迫力がすごいね。だから、多分面白いかなと思って。

—：いい人って具体的に何を指しますか？

D：具体的に、有名な俳優。

—：好きな俳優ですか？

D：いや、好きのわけじゃないですけど、有名な俳優が出ている映画は面白い映画が多い。

このように、Dさんは非常に映画の宣伝コンテンツを重視している。そして、Dさんは作品の知名度を認知した上、作品の面白さを判断し、作品を鑑賞する習慣があると考えられる。こうした鑑賞習慣は、Dさんが『秒速5センチメートル』のような映画を見なかった理由にあると推測できる。さらに、Dさん、アマゾンプライムでの映像作品鑑賞習慣について、以下のように語った。

D：普段は、『東京喰種トーキョーグール』。ドラマじゃない、映画だ。『君の名は。』

をたべたい』。あと、『寄生虫』、『打ち上げ花火、下から見るか横から見るか。』
—：『打ち上げ花火、下から見るか横から見るか。』という映画は友だちがすすめてくれましたか？

D：いや。日本では結構有名な。歌の人が結構有名で、だから、僕はこの映画を知って、面白いかなと思って、興味を持って見た、だけど、全然面白くなかった。アニメーションが好きな人は面白いと思ったけど、僕はアニメーション好きじゃないから、全然面白いと感じなかった。あと、『ワンパンマン』、『結婚できない男』、面白いから、コメディ。

—：これも友だちにおすすめしますか？

D：テレビでやっていて、弟も見ていて、弟は9歳下。今14歳。

—：結婚できない男以外のドラマ、何を見ましたか？

D：『ラストシンデレラ』。『恋仲』。失恋ショコラティエ。最近のドラマを見てないね。あ、あと初めて恋をした日に読む話。ダメな私に恋をしてください。テレビで見ました。

Dさんのアマゾンプライムでの映像作品鑑賞習慣から見ると、知名度の高いコメディの作品がDさんの関心・注意を引く可能性が高いと推測できる。新海誠は、『君の名は。』を作ろうとした際、この作品に「最後まで見て、明るい気持ちで映画館を出るのを見たい気持ちにだんだんなってきました。」という思いを込めたと語った。そうして、Dさんの鑑賞習慣を考えながら、Dさんは自然にこうした作品である『君の名は。』に引き寄せた。

また、Dさんは、『君の名は。』に好感を持つ理由には、もう一つがある。Dさんは、一番面白かったことについて、以下のように語った。

主人公である「たき君」と入れ替わっていた三葉は実は2年前に死んでいた。そこがとても興味深く、またそこがストーリーの軸となって話が進んでいて面白い。『君の名は。』は日常世界をモチーフにしているにも関わらず、非現実的なストーリー構成な部分もまた好き。

かくして、Dさんは、タイムスリップの中のお互いの体の入れ替わったストーリーについて、深く興味をいだいている。また、Dさんは、『君の名は。』は「考えさせる映画だと思う」と語った。具体的には、Dさんは

まず、2年前に、三葉死んでいたじゃん。なんで、死んでいた人と入れ替わったのか、とか、うん、そこの三葉が死んでいたのに、入れ替わって、なぜだろうというか、考えさせられる。

と説明した。また、Dさんは、「ストーリーを見ながら、考えながら、映画を見るというのがすごく楽しい。」と語った。

このように、Dさんに考えさせたのはタイムスリップの中のお互いの体の入れ替わったストーリーである。そして、考えながら映画を見るのが好きなDさんにとっては、『君の名は。』を見た経験が楽しいことを評価しているのである。

(2) 高校生活に関するライフストーリー

Dさんは、高校時代に、塾に通ったことがあり、アルバイトをしたことがない。まず、アルバイトについて、Dさんは、以下のように語った。

D：高校の三年生、あと、なんだっけ、中学校の時も塾も通った。中学校3年生の

時。中学校の1年生の時も塾も行ってたけど、3年生の時も通って。周りの人は、塾に通ってました。

—：そうですか？友だちと一緒に塾に通ってましたか？

D：そうだね、友だちが結構いましたから。あと、彼女もいたから。

—：その経験について、どう思いますか？

D：楽しかった。そう思っているくらい。

—：どこか一番楽しかったと思いますか？

D：勉強して学力が上がること。センター試験、という全国試験、中国でもある。それに向けて勉強して、センター試験を通過することによって、大学を決めて、そのあと、大学の試験もすぐだね。センター試験終わったら、大学試験は一ヶ月しか勉強時間がない。第一志望はL大学ではない、秘密で、理由は恥ずかしい。ほとんど思い出したくない。二次試験の英語で落ちてしまった。数学結構簡単でした。

Dさんは、塾に通った経験は楽しいと語った。

(3) 滅びの美に関する意識

後述のHさん、Iさんと比較すると、『君の名は。』から新海作品を見る新規ファンDさんは日本人であるが、滅びの美の意識が一番弱いと考えられる。Dさんは、滅びの美という言葉を知らない。しかし、Dさんは、散り際の桜の美を意識している。好きな桜を見るころについて、Dさんは、以下のように答えた。

—：普段には、桜を見るのが好きですか？

D：見るね、たまに、毎年、一人じゃないなら。

—：どのような桜の咲き方が好きですか？

D：満開のとき。

—：たまに日本人の中に、風が吹いて、桜が落ちる瞬間好きの人がいます。

D：ああ、これも好きだね。

—：これと満開のときと比べると、どちらが好きですか？

D：満開のとき。

—：満開の 때가美しいですか？

D：美しいね。散っている時が満開じゃない。

—：悲しいと思いますか？

D：悲しいと思いません。

—：満開より、風が起きて吹いて、桜が落ちる瞬間好きの人がいますが、これについて、どう考えますか。

D：いいと思う。俺も好きだし。

Dさんは、散り際の桜も満開のときの桜も見るのが好き、しかし、満開のときの桜がより好きである。次に、廃墟について、Dさんは何も感じておらず、無関心だと言える。さらに、「ノスタルジアを感じたことは何か」に対して、Dさんは、以下のように語った。

D：そうね、小学校とか。

—：小学校？

D：そう思うね。

—：どうして。

D：懐かしい。

一：今は、小学校の時を思い出した。

D：そうね。

一：どうして、中学生や高校生の時ではない。

D：高校生も懐かしい。確かに。

一：どうして懐かしいと感じます。

D：時間が経っているから。

一：懐かしいという言葉、どう考えますか？

D：懐かしいことについて、どう思うかということ。

一：そうです。

D：過去の思い出がよみがえる。というのが、多分日本人が好きかもしれないね。懐かしいというのは、思い出が思い出されること。ということかな。

Dさんは、ノスタルジアを感じたのは、小学校、中学・高校生の時を思い出したときである。理由は、時間が経っていて、懐かしいと感じた、ということである。また、Dさんは、この習慣は日本人が好きな行動だと考えている。

Dさんは、「ハッピーエンディング、アンハッピー・エンディングがどちらが好きか」という質問に対して、以下のように語った。

Dさん：やはり、バッドエンドは嫌だ。今、『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない』を見ていて思った。悲しい気持ちになるから。その気持ちに近い！悲劇は少し嫌いだね。失恋のストーリーとかも嫌い。あと、失恋の歌とか好きな人いる。悲劇の映画や歌が売れていることから推測して、悲劇が好きな人も一定層いるってことだね。

かくして、Dさんは、アンハッピー・エンディングの作品を見て悲しい気持ちになるため、悲劇、特に失恋のストーリーが嫌い。そこで、別れざるを得ない少年少女の思いを描いた『秒速5センチメートル』はアンハッピー・エンディングを迎えることから、Dさんの作品嗜好と合わないとは推測できる。

3.3.4 Eさん

Eさんは、24歳の日本人女性である。父親は日本人で、母親は中国人である。彼女は日本で生まれ、6歳まで6年ほど日本に過ごしていた。両親が中国で日本語教師として赴任したため、彼女は7歳の時、小学1年生から大学3年生まで、中国現地の学校に通いながら、中国で住んでいた。

(1)新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Eさんは大学1年生の中国に住んでいたとき、日本の高校生活を知りたいと考えて、ネットで日本の高校生活について調べた。彼女は、

Eさん：当時、言の葉の庭と秒速5センチメートルは名前だけ聞いた。中国にいたが、私は日本人で、日本で学生生活を過ごしていなかったため、その作品の中の世界に憧れていた。

一：一番憧れていたことは何ですか？

Eさん：まず、恋愛。次は、学生制服。日本の高校、ライフスタイルは中国と違

う。授業が終わったら、自転車で家に帰るし、歩いて帰ることも出来る。また、部活も参加できる。やっぱり中国の道路と日本の道路が違う。私は日本の都市環境の方が好きだ。あと、雰囲気も。また、日本は安全だ。お母さんはずっと中国が安全だと思っておらず、だから私が一人で外で遊ぶことを禁止している。

彼女は、『秒速5センチメートル』と『言の葉の庭』を見た感想について、

Eさん：言の葉の庭といえば、男子高校生と女子教師の恋愛。年齢において差があるが、感情におけるやりとりは自分の心を動かした。あるシーンで、女子教師はビールを飲みながらチョコレートを食べる。男子学生はあれを見て、一目惚れした。二人は交流を進め、友情関係は築いていった。私はそばにもそういう人が居てほしい。

一：男子学生ですか？

Eさん：そうです。主人公は日本人だから、私もそうです。同じ価値観を持つ人だと考え方をシェアできる。中国人なら、目標があっても、夢がない。特に大学に入る前に。大学時代の友達には自分の夢を持っているが、私は日本文化が一番好きで、彼たちにとっては、そうではない。一番好きな文化は決して日本文化ではない。私はジブリ、ジャニーズ、JPOPが好きだけど、周りの人はほぼ興味がない。私は共同寮で日本音楽を流していたが、ルームメイトは中国音楽や韓国音楽を流していた。彼たちは日本音楽はそんなに盛り上がりがないとかテンションが高くないとか思ってた。

と語った。

(2) 滅びの美に関する意識

Eさんは大学院の講義で、「滅びの美」に関する内容を受け取った。講義で、Eさんの先生は『東京物語』を挙げて、物哀れを説明してから、「滅びの美」について紹介した。「滅びの美」について、Eさんは「悲しいが、美しい」と思った。

3.3.5 Fさん

Fさんは、24歳の中国人男性である。高校時代から大学までイギリスで過ごした。イギリスのM大学の数学専攻である。大学を卒業し、オーストラリアの大学のN大学の商業分析研究科に進学した。2019年Fさんは修士を卒業し、オーストラリアで就職した。Fさんは、新海作品の古参ファンで、前述の中国人古参ファンのAさんと同じ、『君の名は。』より前の『秒速5センチメートル』から新海作品に触れてきた。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Fさんは、新海作品に惹かれたきっかけについて、

初めて見た新海作品は秒速5だった。高校2年生の時、当時18歳、2011年。友だちにおすすめされた。「新海誠というアニメ監督は知っている？」と。当時は、友だちの話を聞いて、何か、『秒速5』（筆者注：Fさんの語った『秒速5』は『秒速5センチメートル』である。以下も同じ。）という映画の名前が良い、芸術的、映画のタイトルの意味が全然わからないけど。あとは、この時は自分がすごく中二病、『秒速5』の画面が綺麗、歌もいいし、主人公は高

校生なので、共感できる。

と語った。当時高校2年生であったFさんは、「中二病」だと自認し、散り際の桜の花びらが舞い落ちるスピードという『秒速5センチメートル』の題意を全く知らなかったが、その標題の言葉の魅力に惹かれる思いがあった。そこから、新海作品に興味を持ち始めた。『秒速5センチメートル』を見た後、Fさんは、『秒速5センチメートル』に共感を覚えた。この共感について、Fさんは、以下のように語った。

見た後でも共感できる。例えば、小さいときに、スマホとかがなかったため、別のところに住んでいる友だちとお互いに手紙を書くことしかできなかった。私は、高校に入学して三ヶ月ぐらいの時に、中国を離れて、イギリスの高校に進学してきたので、遠く異郷にいる気持ち、遠距離の恋愛とかすごく理解できる。あとは、『秒速5』の中には、少年は大人になって、卒業し、仕事のために別れるという事情が描かれているけれど、あれは自分の生活に近いと思う。

『秒速5センチメートル』の男性主人公と似通っており、Fさんは子供時代に、友人と手紙で交流した経験がある。また、Fさんは高校1年生のときから、少年時代の友人と別れざるを得ず異国で過ごし、現在大学院を卒業し職場に入ったことから、『秒速5センチメートル』に自然と共感するのだと思われる。『秒速5センチメートル』に共感したFさんは、自分自身の新海作品についての受容経験について、

『秒速5』は、いままで、10回ほど見た。独自で見るのは、4回ぐらい、友だちと一緒に見るのは6回。他の新海作品は1回ずつ見た。順番に言えば、『彼女と猫』、『雲の向こう、約束の場所』、『星を追う子供』、『秒速5』、『言の葉の庭』、『君の名は。』、『天気の子』。

と語った。『秒速5センチメートル』を10回見たFさんは、前述の中国人古参ファンAさんと同じく、『秒速5センチメートル』と『君の名は。』の違いを感じた。Fさんは、「『君の名は。』を見た感想は何か」という問いの中で、新海の作品間の違いも触れている。Fさんは、以下のように語った。

Fさん：『君の名は。』と『君』より前の作品とは、違いがある。『秒速5』は悲劇で、残念だと感じた。流れるようで美しい。胸がしめつけられるくらい。日本文化はそもそもよく、自殺、桜を『托物言志』にして、登場人物の感情が流れるように表現される。最初に見た時、映画のシーンはどういう意味なのか、全然わからない気がしていた。ある程度の「意識の流れ」かな。でも、『君の名は。』はすごく商業化している。例えば、映画のリズムとか、あと、異性の高校生の体の交換はよくある典型的な手法で、商業化されたものである。でも、物語を話すレベルが高い。一回見るだけで満足できる。あと、ハッピーエンドの雰囲気がよくできている。

このように、Fさんは、ハッピーエンディングの『君の名は。』と比較した上で、『秒速5センチメートル』の背景にある悲劇に魅力を感じた。また、『秒速5センチメートル』に触れた当初の経験と違って、『君の名は。』を見たFさんは『秒速5センチメートル』

ル』の背景にある日本特有の表現手法に言及した。Fさんに、「日本文化に関する考え方はFさん自身のものであるか」について問いかけた。Fさんは、こういう質問に対して、「まあ、私はよく豆瓣網という映画のレビュー・感想・投稿サイトを見ている。その中で、日本文化に関する映画の背景を深く掘り下げた映画のレビューに興味を持っている」と語った。

新海誠の新作『天気の子』について、Fさんは、

『天気の子』の中に、東京が水没するところがある。『秒速5』と比べると、架空の表現が多い。

と語った。また、東京が水没する画面に対して、Fさんは、「非常に美しい。」と肯定的に評価した。

(2) 滅びの美に関する意識

中国人調査対象者の中で、『君の名は。』より前の作品から新海作品を見ているFさんは、前述のAさんと違い、滅びの美を少々理解している。Fさんは、「滅びの美は知っている」と述べた。「滅びの美は何か」という質問に対して、Fさんは、

それは単なる美的概念ではないのか？日本人は破壊されたものが美しいと感じる。

と語った。好きな桜を見るころについて、Fさんは、

桜を見ることは、誰でも好きでしょう！散っている桜が好き。

と語った。また、Fさんは、桜を見る経験について、以下のように語った。

イギリスに留学した際に、ロンドンに住んでいた。桜を見る機会が無かった。オーストラリアに留学した際は、シドニーに住んだ。シドニーには、日本桜祭りがある。あそこで、桜の苑がある。よくここで写真を撮った。祭りで、日本芸者による踊りのパフォーマンスがある。

と語った。また、Fさんは、作品の終わりの嗜好について、ハッピーエンディングの方が好きと語った。理由は、

優しいエンドの作品が好き、自分が一番好きな作品は『銀魂』である。『銀魂』は面白いが、自分を感動させる。日々の生活は残酷なので、芸術作品は自分の生活にハッピーをもたらすとしたら、いいんじゃないかな。

ということである。

(3) 高校生活に関するライフストーリー

Fさんは、前述の中国人のAさん、Cさんと違い、高校時代から他国で過ごしたこともあり、高校生のアルバイトは「普通だ」と感じられたようだ。さらに、Fさんは、高校時代に、イギリスの高校のレストランでアルバイトをしていた。

Fさんは、高校時代に、当時の恋愛経験を両親に教えていなかった。理由について、Fさんは以下のように語った。

恋愛のことを親に教えてなかった。『早恋』（筆者注：中国語で、少年たちの恋愛を指す。親と学校に反対されてニュアンスがある。）だから。また未成年なので、一旦、親に恋のことを伝えたとしたら、きっと親に怒られたかもしれない。

教える価値がない。また、親に勉強を重視しなさいと言われる。
成績を重視するため、高校時代の恋愛を両親は許さなかつたらうと F さんは感じている。

3.3.6 Gさん

Gさんは、28歳の中国人女性である。Gさんは、学部は中国のX大学の法学専攻である。大学を卒業し、大学院入学試験に落ちてから、故郷の事業単位試験に合格した。彼女は、現在中国の東南部のS市裁判所で公務員として働いている。Gさんは、新海作品の新規ファンであるが、前述の日本人新規ファンのAさんと少し違い、調査した時点で、『君の名は。』を見たことをきっかけにして、『君の名は。』の前の新海作品に触れている。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

2017年中国での『君の名は。』の放送が終わった直後、中国の動画配信サイトで『君の名は。』を見て、新海作品のファンになったという。Gさんは、新海作品に触れた経験について、以下のように語った。

『君の名は。』を三回見た。1回目は2017年の三月のころであり、『君の名は。』の中国での放送が終わった後、中国の動画配信サイト「テンセントビデオ」(TENCENT VIDEO) で見た。2回目は忘れた。3回目はSNSで友人の『天気の子』に関する投稿を見て、2019年5月に見た。『君の名は。』を1回目見た後に、動画配信サイトのおすすめメッセージにより、『秒速5センチメートル』のプロモーションビデオを見て、『秒速5センチメートル』を見ようと決めた。

新海作品の公式的な放送権を買った動画配信サイトが、新規ファンのGさんに『君の名は。』より前の作品を見るよう勧め、そのメディア環境を提供した。

Gさんは、『君の名は。』を見た後に、『秒速5センチメートル』『クロスロード』を見た。

(2) 高校生活について

Gさんは高校時代には、交際経験がある。しかし、それは親、学校の先生に反対された。それについて、Gさんは

G: 高校3年生の時、当時の恋人の両親は恋愛のことをクラスの担任に知らせた。先生は私の両親に連絡していた。自分の恋愛はお母さんに迷惑をかけ、ギルティ(罪悪感)を覚えます。恋愛は二人のみのことではなくて、二人の家族にもかかわっています。高校の恋愛に対し、いいイメージを持っています。

と語った。

3.3.7 Hさん

Hさんは、24歳の日本人男性である。現在日本のR大学コンピューターサイエンス専攻の修士2年生である。『君の名は。』より前の作品から新海作品を見てきた日本人の古参フ

アンである。

(1)新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Hさん、新海作品に接触したきっかけ、以下のように語った。

きっかけ、まあ、結局一番有名なのは秒速5センチメートルだったりするので、そこからかな。インターネットとかでよく秒速って、こう、オタクに刺さりがちみたいな、ところがあるので、まあ、そういうところによく見るタイトルだったので、まあ、タイトルから名前を知った。

オタク趣味からHさんは新海誠の作品を知るようになった。同氏の中で、一番好きな作品について、Hさんは、

好きなのは何だろう。星を追う子供かな。世界観の広さというか、旅を進めている話なので、まあ、オーソドックスながら、新海誠なりの視点が入っているから、僕に結構良かったかな。

ここで、日本人の古参ファンHさんから感じた新海誠らしさについて、Hさんは以下のように語った。

それは割と、良かったな。まあ、だから、そういう、まあ、『秒速5センチメートル』は結局、第三話では、こう、昔ね、好きだったこととかを、こういう話だったりするじゃないですか。そういうところが、新海誠なりの思いというか、まあ、そういうところに浸っているというのが、彼はいいと思うんだけど、そういう感傷的なところが。浸るのが好き、とか、そういう気持ちが見えたので。いわゆる『星を追う子供』ってジブリっぽいような絵で、なんかそういう、絵柄的にはそういうポップなところもあるんだけど、結局そう、結末的にはやっぱり新海誠らしいなというところを感じ取ったなと、僕は思う。何だ、こう、感傷的なところへのこう、感傷的なところに対する、なんだろ、浸るところのこう、まあ一種の気持ち悪さみたいなところが新海誠らしさだなあと、僕は思っていたりしたんだけど、『君の名は。』ちょっと、そこら辺はなんか、わりと転換があったのかなあみたいな気持ちはあった。

—：転換？

H：なんかあんまり、『君の名は。』って、そう、いわゆる『秒速5』における最後のこう、踏切の向こうに明里はいないみたいな、ああいうふうな感傷的な部分はあんまりなかったと、僕は思っていて。だからそういうところは転換があったのかなと。

Hさんの語りから見ると、Hさんが感じた新海誠らしさは、『君の名は。』より前の作品に見られる感傷的なところに浸れる、一種の気持ち悪さであるとした。Hさんは、こうした新海誠らしさの有無は、『君の名は。』を中心に、分かれる。」と語った。しかし、Hさんは『君の名は。』以後の『天気の子』について、こうした新海誠らしさが復活したと感じた。Hさんは、以下のように語った。

でまあ、『君の名は。』からはちょっと離れるんだけど、その、この前あった『天気の子』、っていうところだと、まあむしろ、新海誠らしさが復活していたのかな、というのは割とあったりして、こう、結局、世界を犠牲に、何ていうかな、世界もヒロインも全部救うみたいな感じじゃなくて、世界がめちゃくちゃになっている中で、ヒロインと一緒になれて嬉しいみたいなところが、わりとこう、新

しい新海誠らしさなのかな、っていうところで、一つの転換があったのかなと。Hさんは、こうした新海誠らしさを備えた作品を見るのに適した年齢があると語った。

前の作品は未成年の時、中高生の時に見た方がいい。また、オタクっぽい。自分はまだもっと早めに見た方がいいと思う。30代以後の人は新海作品を見ると、はずかしい。

また、2回目のインタビューで、Hさんは、この恥ずかしいと感じた理由について、以下のように語った。

H：比較できる自分の経験が多いし、特に新海作品ではしばしば若い頃の経験とマッチしがちだと思います。そういうときに、懐かしさとともに未熟だった頃の自分を思い出してしまうと、恥ずかしくなるのかなと予想したりします。また、(自分の実際の恋愛)経験とマッチしていなくても、まるで経験したことがあるかのような恥ずかしさを感じる場合もあるかもしれません。

—：その経験は何を指しますか？

H：自分の恋愛経験と近い描写があると、共感しすぎて恥ずかしくなる。

また、青春とアニメ作品の関係性について、Hさんは、以下のように語った。

物語としては、30代で青春じみた、青春っぽい恋を知ったりというのもあると思うけれど、現実的にはいろんなしがらみ(制限)が増えるので、のびのび恋をすとか、未来を考えずに恋をするということはあまりないと思う。そこから外れる人もいるとは思いますがね。だから、まあ、ね、物語としては、青春気味だというか、青春っぽい。

Hさんの語りから見ると、Hさんは、30代の青春に関する物語はあり得ると感じる。しかし、Hさんは、いろいろな現実を意識した上、現実生活の中には30代以後の人生は配慮しなければならない問題が多く、30代以前の恋愛をすることはできないと考えている。だから、Hさんは、自分自身は30代以後の人の立場に居て、新海誠の作品に恥ずかしいという距離感を抱いている。この感情について、Hさんは具体的には以下のように語った。

—：前回のインタビューで、30代以後の人は新海誠の作品に対する、ある程度の距離感がありそうですが、この距離感に至るきっかけは何ですか？

H：きっかけ、まあ、だから、そういう、新海作品は青春じみた恋愛の描写が多いので、30代になった、青春を送っていた年代から離れると距離が開くと思う。あまり共感できなくなってくる。

Hさんは、『君の名は。』に共感を持つシーンは何か」という質問に対して、主人公は田舎の出身で、頑張って東京に行きたい気持ち。

と答えた。

(2) 滅びの美に関する意識

Hさん、日本人の古参ファンIさんと違い、Hさんの滅びの美の意識が一番強い。好きな桜を見ることについて、Hさんは、

桜を見るのが好き、毎年見る。パッパッと咲き始める時より、桜が散っている時、木に残っている時と散り始めるころが好き。

と語った。また、Hさんは、滅びの美を知っている。「日本特有な美学、意識」を位置付けた。さらに 普段は滅びの美の背景にある景色を見るのが好きである。こうした

経験について、Hさんは、以下のように語った。

滅びの過程を見ることが大好き。例えば、S市の公務員宿舎、M町の商店街の滅びの姿の写真を撮る。例えば、ガラスがボロボロの時の写真。廃墟を見ることが好き。

Hさんのこうした経験・趣味について、いつからかと聞くと、Hさんは、
子供の時。家の近くに、製鉄所がどんどん滅びていくところを見た。
と説明した。

こうした滅びの美が好きなHさんが、アンハッピー・エンディング作品を見る志向について聞くと、意外にも

見る作品の中で、ハッピーエンドの作品が多い。

と答えた。また、ユリ小説を創作しているHさんは、自分が作った物語には、「全部ハッピーエンド」だと語っている。こうした作品の創作理由は「自分の作ったキャラクターがいいエンドを迎える」ということである。アンハッピー・エンディングの『秒速5センチメートル』を肯定的に評価したHさんは、自分の作品志向に矛盾がないと感じた。Hさんは、この矛盾ないことについて、以下のように説明した。

確かにハッピーエンドの作品を見る傾向はあるが、常にストーリーを知ってから作品を見ているわけではないので、そういうこともあると思う。特に矛盾しているとは思っていない。

Hさんは、ノスタルジックを感じることを好きである。Hさんは、
ノスタルジックが指す範囲は広いし、定義はいろいろあると思う。とりあえず、僕が見ている範囲では、ノスタルジックといったときに「実際には経験していない場面や景色のはずなのに、なぜか懐かしさを感じる」というものを指す場合が多い気がする。いわゆる「美しさと切なさが共存した写真やイラスト」と説明されるようなものはおおよそ好きである。

と語った。

(3) 高校生活に関するライフストーリー

Hさん、高校時代にアルバイトをしたことがない。アルバイトしなかった理由について、Hさんは、

高校時代、アルバイトをしたことがない。禁止だった。自分の高校は禁止だけと、日本のアニメによく出る、やればいい。

と語った。こうした高校生のアルバイトについて「やればいい」の真意を聞くと、Hさんは、以下のように語った。

欲しいものが手に入ればいい。コンビニとかのレジの仕事は高校時代にやったら、大学のアルバイトはあまり苦労しない。

また、Hさんは、高校時代に、塾に通った経験がない。Hさんは、自分の高校時代の勉強経験について、以下のように語った。

勉強に専念したことはない。よくたくさんのフリーのパソコンゲームをやった。プロミシングを独学していた。きっかけは父親の古本。父親は工業高校卒、仕事のために、昔のプロミシング言語を知り、よくCADを作っている。

3.3.8 Iさん

Iさんは、22歳の日本人男性である。Iさんは、現在日本Q大学の情報工学の4年生、前述のAさんの後輩で、2019年、元専攻の大学院の入学試験に合格し、来年度、Iさんが現在所属しているゼミに所属する。Iさんは、『君の名は。』より前の作品から新海作品を見る日本人の古参ファンである。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Iさん、新海作品に興味を持ち始めたきっかけについて、以下のように語った。

高校1年生くらい、NHKの特集、『星の声』、『秒速5センチメートル』に関する新海誠の特集、名前は思い出せない。

Iさんは、特集を見た後の新海誠に対するイメージについて、

背景の絵がすごく綺麗で写実的。写真のようにリアルな作画がすばらしい。新海作品の中の『ほしのこえ』『秒速5センチメートル』などの人物の描写は少し苦手。『ほしのこえ』も『秒速』も報われない終わりかたをしている。ハッピーエンドではなく、後味の悪い終わり方をしている。

と語った。Iさんは、日本人の古参ファンEさん、Hさんと違い、『秒速5センチメートル』より『君の名は。』の方が好きである。まず、Iさんは、『秒速5センチメートル』について、

最初はハッピーエンドなのかと思った。「秒速」もラブコメ・恋愛コメディーかと思った。自分はこれまで恋愛系でハッピーエンドの作品しか見たことがなかったので、今回もハッピーエンドなのかと思った。ところが実際見てみたら、ハッピーエンドとは言えない終わり方をしたので、衝撃を受けた。

と語った。『秒速5センチメートル』の人物描写が苦手なIさんは、他の新海作品の描写が良かったと感じた。

一：他に好きな作品は何ですか？

I：ジブリが好き。『星を追う子供』を見たときに、最初に新海作品を見た時よりも年月が経っているので、監督の絵がうまくなっていて驚いた。キャラクターデザインが良く、それで好きになった。歴史背景を鑑みて作っている作品が好き。昔の遺跡を新海なりに解釈して描いているので好き。

またIさんは、新海誠の作品は『君の名は。』を中心に、作風が変わったという。Iさんは、

変わったと思う。『君の名は。』は大衆向けに描かれていると思う。『君の名は。』以前は一部の人を満足させるための内容だった。『君の名は。』はみんなにわかりやすくキャッチーだが、それでいて新海の作風が出ている。

と語った。また、『秒速5センチメートル』と『君の名は。』の違いについて、Iさんは同じところは背景や風景の描写はクオリティが高い。違うところは、まず、絵として、人間の描き方が昔はスケッチ調だったのが、いまはアニメ調になった。背景と人間が同じくらい高いクオリティで描かれるようになった。また、物語の終え方も、『秒速』のように見ている人がショッキングでなく、『君の名は。』のようにハッピーエンドで明るい終わり方になった。大衆受けするようになった。

と語った。

(2) 滅びの美に関する意識

Iさんは、滅びの美を知っているが、滅びの美を学問として捉えることを否定的に評

価する。Iさんは、好きな桜を見るころについて、以下のように語った。

好き。満開の桜が好き。散っている時は儂さを感じる。綺麗に咲き誇っていたものが散っていくのはさびしい気持ちになる。満開のほうが好き。花は咲いているときに綺麗だと思う。散っているときも風情はあるが、満開の方が好き。

また、Iさんは廃墟について、

実際の廃墟はあまり近寄りたくないが、安全がわかっているならば、軍艦島（長崎県）のように安全が保障されているなら行ってみたいと思う。アニメとしての廃墟は過去の栄光の跡地とか、概念として、ホラー要素、歴史を示すのに使われる概念だと思う。

と語った。Iさんは、滅びの美について、以下のように語った。

—：滅びの美学を聞いたことがありますか？

I：名前だけ知っています。

—：どういうイメージですか？

I：滅びの美学だから、栄光性というか、先日のインタビューの内容から引っ張っていくなら、まあ、桜が散っているさま。散っていくのを見ているときに、あの、（筆者補：滅びの美を）こうした人間が感じることを体系化して、学問として捉えるなら、自分は滅びの美学、名前しか知らないし、詳しいかと言われると、まあ、全然知らない。

—：先の定義を踏まえて、滅びの美学とは具体的にはどんなことですか？

I：まあ、日本人ならある発想ですね。

—：どうして日本人ならではの発想だと思いますか？

I：風情がある感じする。物事に…美しさを見る。それが美学であり…

—：自分で言ったことを学問にしようとするのは、割と他の国では見られないなと思います。

—：この滅びの美学は、普段は、どんなときに感じられますか？

I：言うとならば、物事が終わっていくときに、いろいろ、卒業とか。でも、滅びが、ギリシャのアポロン神殿、世界の遺跡を見るなら、滅びの美学にあってハマるんじゃないか？あまり感じないが、言われたら、ですね。自分が言われて、じゃ、見つけてくださいって言われたら、じゃ、こういうのは、滅びの美学じゃないですか？という感じかな。言われないとわからない。言わないと気づかない。言われたら、気づく。あまり意識しないですね。

3.3.9 Jさん

Jさんは、28歳の日本人男性の古参ファンである。Jさんは、青森県の出身で、彼は東京のU大学と同大学の大学院を卒業してから、現在東京でソリューション・エンジニアとして勤務している。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Jさんが新海誠という名前を知るようになったのは、彼が高校時代、テレビで新海誠に関する特集を見たことがきっかけである。Jさんが特集を見た後に、新海誠の『秒速5センチメートル』と『言の葉の庭』を見た。彼は『君の名は。』を見たが、どこで、どうやって視聴したのかについて記憶がない。彼は、

高校のときに俺は『秒速5センチメートル』を見ていたのね。友達に勧めたら、「なんで、あの痴話」って言われて、こういう人がいるのだと。恋人の間のくだらない話みたい。

と語った。また、『君の名は。』について、彼は、

『君の名は。』もいいですが。あの主題曲がなんかさ、ラッドウィンプスっているバンドさ、それより、無名な歌手を使った方がよかったなと思った。無名というか、あまり若者に知られない歌手を使った方が。山崎まさよしとか、みずさわゆうきとか。みずさわゆうきは新海作品で歌ったけれど、今ぜんぜん活動していない。

と語った。古参ファンであるJさんの語りから、彼の『君の名は。』の大衆に向けられる事象に多少の不満が見られる。それは彼の作品の商業化への不賛成の志向だと考えられる。また、彼は『君の名は。』の悪いところについて、人気プロデューサーを起用したことと、ラッドウィンプスのような人気音楽家と神木のような人気俳優を起用したことを挙げた。しかも、Jさんは『君の名は。』の女性主人公は大衆向けのタイプであり、『秒速5センチメートル』のアカリのような可愛さが見られないと述べた。

(2) 滅びの美に関する意識

Jさんは滅びの美を認知しており、これについて「日本の武士道じゃないのか」と語った。Jさんは「これは美人薄命の意味と似ている」とも説明した。Jさんは「佳人薄命、美人薄明」と例をあげて、「滅びの美という概念は日本特有ではなくて欧米文学も中国文学の文脈にも見られる、例えば、蘇軾による薄命佳人という語りがある。」と説明してくれた。そこで、Jさんの滅びの美に関する意識があると考えられる。しかも、彼は三島由紀夫の『仮面の告白』を読んだことがある。

(3) 高校生活に関するライフストーリーとその他

Jさんは中学生から塾に通っていた。彼の父親は地方大学の英文学の教授で、しかも両親は勉強させるタイプであった。彼は高校時代、大学への入学試験に落ちて、1年間の浪人経験がある。彼は中学校、高校時代に恋愛経験がない。初めての交際は大学院にいたときである。

「どうして好きな人がいるのに一度も告白しなかったのですか？」と聞かれて、彼は「その理由は恋愛のテクニックがない。どうやって女性同級生の前で振る舞えばいいのか、わからない。日本では、いい大学に進学できる人は恋愛する時間がない。」と説明した。

3.3.10 Kさん

Kさんは、28歳の中国人男性の古参ファンである。Kさんは、中国地方の出身で、現在アメリカのカリフォルニア州でIT会社エンジニア職として勤務している。彼は中国のR大学の物理学部を卒業してから、アメリカのM大学院に入学した。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Kさんは新海作品に興味を持ち始めたきっかけを以下のように語った。

—新海誠という名前を知るようになったきっかけは？

Kさん：中学生の時からずっと『動感新勢力』という雑誌を購読していた。その中には新海誠を紹介された文があった。彼の名前を知るようになったきっかけはこれだ。その後、あるニコニコのような中国の動画共有サイトAcFunでGalgame

である『Eden』のOP動画を見た際、弾幕に新海誠の名前がしきりに出てきていた。彼に対する印象が深められた。でも、「誠哥」（筆者補：中国語での「哥」は兄を意味する。それは、中国の新海誠ファンの新海誠につけたニックネームである。）はそのOPのメーカーではなくて、制作に参加したことだけだ。なぜ、彼の映画を見るようになったのか、そのきっかけは既に忘れていた。多分、『one more time, one more chance』という曲を聴いて『秒速5センチメートル』を見ようとした。

一：Kさんの両親はそのネット使いに対して、あまり文句言わないタイプですか？

Kさん：そうです。かなり緩い両親に育てられてきた。両親は地方の師範学校の心理学専攻の講師だ。

Kさんの語りを踏まえて、新海誠やその作品にたどり着いたのが彼の読書経験にあったことがわかった。Kさんの語りから、中国の新海誠の古参ファンは新海誠を、受け手の若者たちが持つ青春なりの気持ちを理解してくれる、「兄」のような存在と捉えていると考えられる。そして、Kさんは文化資本を備えるファンとして、持ち前の鑑賞力によって新海作品にアニメ映像を玩味したり、技術批評さえしたりしたことがわかった。

一方、後述した中国人女性の新規ファンNさんと比較して、Kさんの両親は彼の中学校と高校時代、ネットの利用をあまり制限していなかったことがわかった。

Kさんは、全ての新海作品を見た。その中には、一番よかった新海作品は何かと質問したところ、彼は以下のように語った。

Kさん：『言の葉の庭』だと思う。その理由は、音楽がいいということだ。そして、『言の葉の庭』は万葉集の短歌が原点だ。それは他の学園恋愛アニメと違う。あと、新海誠は男の内面的な動きを非常に理解してくれる。例えば、『言の葉の庭』の女性主人公の足とか、『君の名は。』の三葉のよだれとか。でも、『言の葉の庭』以後の作品は商業主義に近いと言える。『言の葉の庭』には、本物の新海誠のらしさがある。

一：新海誠らしさとは？

Kさん：制作のコストが少なく、長さは短くて、音楽が上品で、若者のお互いの愛情、それは誠が最も上手なことだ。『秒速5センチメートル』最初の一章がいい。しかし、後ろの2章は共感を引かせないので、印象が深くない。『星を追う子供』は宮崎駿を真似する失敗作だ。『君の名は。』と『天気の子』のストーリーが整えていたけど、商業主義に寄る作品だ。『君の名は。』等と比べて、『言の葉の庭』の良さが目立つ。『星を追う子供』のような成功したとは言えない作品を経て、彼は最も上手なラブストーリーの領域に戻ってきた。それは彼の一番正しい選択だと思う。その『言の葉の庭』の中には、彼は長く間にチーム組みの制作同士である天門さんと離れて、ピアニスト KASHIWA Daisuke を起用して、BGMを作成させた。そのニュースを聞いたとき、最初は新海誠の作風の変容を消極的に予想していた。しかし作品を見た時、ピアノの演奏と雨が地面に落ちる様子との相性が良く、私を驚嘆させた。「誠哥」はその一貫性ある繊細な画面を残している。あと、その美しい繊細な画面かな。『言の葉の庭』における光と陰の描き方と色をつける方法はその前の新海作品と大きく違う。だから、私はこの作品がとても好きだ。新海誠のインタビューによると、KASHIWAの音楽は彼に『言の葉の庭』を作ろうとさせた。

彼の語りから、中国人の古参ファンであるKさんにとって、新海作品が魅せるのは、1つ目が、新海誠作品の低制作コストと上品な音楽にあることがわかった。この点に新海誠

の古参ファンの反商業主義作品の志向が垣間見られるのではないのか。2つ目が新海誠作品で共感できることである。そして、こうした「共感」とは何かとKさんに質問した。彼は、「前述した、男の内面的な動きに関する描写だ。忘れられない初めての交際相手や初めて好きになった人とか、切ない恋とか、そのピュアな恋」と答えた。これを踏まえて、Kさんが新海作品に描かれた恋を純粋な恋愛として捉えたと考えられる。

一方、Kさんは中学生、高校生のとき、地理的な距離や、中国での日本コンテンツに対する規制、それと絡む日本コンテンツに対する情報不足があるにもかかわらず、Kさんはインターネットや雑誌を通じて、日本文化を認識・理解し、日本アニメコンテンツを吟味するための、自分なりの鑑賞力を身につけた。これらもKさんが日本に足を運んだきっかけになった。彼は「日本に行く時、特に『言の葉の庭』の取材地となる新宿御苑に行った。でも、その時は閉園されたので、入れなかった。」と述べた。

(2) 滅びの美に関する意識

Kさん、滅びの美を知ったと述べた。具体的には、彼は、

それは武士道の1つかな。日本の武士は死の覚悟を持って最後まで戦う。あと、美しいものこそあえて滅ぶという過程だ。

と語った。それを踏まえて、彼は滅びの美に関する意識を持つと考えられる。

(3) その他

Kさんに「中国で氾濫した海賊版問題をどう考えるか」と質問した。彼は、「やっぱり海賊版を見ることはよくないと自覚している。今アメリカで有料の動画配信サイトを利用してアニメを見ているけれど。中国では、政府からのコンテンツに対する統制が続く限り、海賊版でアニメをみる行動は止まらないと思う。」と説明した。

3.3.11 Lさん

Lさんは、29歳の中国人女性の古参ファンである。Lさんは、中国北京出身で、現在北京市で欧米市場、東南アジア市場に進出している中国ゲーム会社でマーケティング職として勤務している。先週、結婚した。彼女は高校のとき、文系を専攻した。2010年、中国の大学入試試験を通じて、中国のY大学のpublic relationship専攻に入学した。しかしその当時、宿舎のルームメイトと仲が良くなかったり、学校の学術的な雰囲気も感じられなかったりしたため、2011年にY大学を退学した。そして、両親のアドバイスを受けて、アメリカの大学に進学しようと決め、2011年から16年にかけて、アメリカのO大学のpublic relationship専攻に通った。アメリカの大学を卒業した彼女は中国に帰国して、中国での欧米系自動車企業で17から18年までの2年間のpublic relationshipの仕事に携わっていた。そして、日本で長く暮らしたいと考えて来日した。18年4月から20年1月にかけて、日本で1年間半日本語学校に通った。日本のZ大学のメディアデザイン研究科を志望していた。しかし父親が癌の末期と突然宣告されて、帰国を余儀なくされた。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Lさんが前述した中国人男性の古参ファンであるKさんと同様に、『動感新勢力』という雑誌を通じて、その中の新海誠を紹介した文章を読んで、新海誠を知るようになった。それをきっかけにして、『秒速5センチメートル』を見た。彼女は『秒速5センチメートル』見て以降、新海作品のスタイルが好きになった。その新海作品のスタイルとは何かを彼女に質問し、彼女は

人々の心をたぎらせる少年漫画と違い、新海作品にはすごく文芸作品っぽさがあって、爽やかだと感じる。

と説明した。彼女は全ての新海作品を見ている。中でも印象深いのは『秒速5センチメートル』と、『言の葉の庭』だという。その中でも、一番好きな作品が『秒速5センチメートル』である。その理由について、彼女は、

高校生のとき、『秒速5センチメートル』を見てすごく感動した。今も見たら、感動するかな。ストーリーに共感を覚えたところが多いから。ストーリーは現実の生活と近くて、それは報われない恋愛。特に、最後のシーン、桜がパッと咲いていて、ある電車が主人公らの間を通っていく。あと、昔の新海作品には、あの報われない恋はよくあった。現実には、好きだという気持ちは必ずしもいい終わりを迎えるわけではない。むしろ、現実には、好きだと感じて、報われない方が多い。このへんについて、私は非常に共感を持っている。

このように『秒速5センチメートル』が好きなLさんは、『君の名は。』を2、3回しか見ていなかった。その差異が生じた理由について、Lさんは、

『君の名は。』のストーリーは現実の生活と違うと感じた。たくさんの人は、『君の名は。』のポスターをスマホのバックグラウンドにしている。でも、私はそうしたくない。『君の名は。』は最初の新海誠の文芸作品っぽさが見えなくて、現実の生活とも離れる。

と説明した。また、Lさんは、2020年の新海誠の最新作品『天気の子』にも触れながら、『君の名は。』について、

『君の名は。』と『天気の子』は似ていると思う。ストーリー自体は整っているが、あまり考えさせられることがない。むしろ、見た後に、印象が残っていない。作品には、共感を覚えたことが全くないし、現実生活にありえない話。完全な架空のストーリーだと感じた。

と説明した。そこで、Lさんにとっては、『秒速5センチメートル』のような『君の名は。』よりも前の作品の方が、現実で起きた恋をより説得力のある形で描いていたと考える。また、Lさんは、新海誠作品を見た後、中国のDouBanというような映画評論が見える投稿サイトを見るのが好きである。こうした投稿サイトには、日本文化を詳しく紹介しながら、日本映画のあらすじの背景を分析する文章がたくさんにあるという。

(2) 滅びの美に関する意識

Lさんは桜や桜のお花見が大好きで、それと関連するグッズをよくたくさんに購入している。彼女は満開も散り際も好きであるが、満開の桜はより好きである。日本にいたとき、彼女は住んでいた高田馬場に川があって、そこに沿った沿岸に桜木がある。

Lさんはハッピーエンドとアンハッピーエンドどちらも好きである。

「滅びの美」が知るかどうかと聞かれて、彼女以下のように答えた。

Lさん：滅びの美を聞いたことがあるが、はっきり覚えていない

—：滅びの美についてのイメージはどこから来たのか？

Lさん：多分、日本のL大学への研究計画書を書く時、日本の国家図書館であらゆる種類の本を読んだときにたまに見た。

そして、「滅びの美」に関する具体的なイメージとは何だ、そしてどこから知ることになったかと彼女に質問した、彼女は

Lさん：桜の木の下には、死体が埋められている。地震で滅んだポンペイ（筆者補：ポンペイは火山噴火で滅んだ）と感じた。

—：その死体に関するイメージはどこから来たか？

Lさん：多分日本の特有の切腹文化という話かな。

それを踏まえて、Lさんは滅びの美に関する意識があると言える。また、彼女はノスタルジックについて、以下のように語った。

英語には、ノスタルジックは故郷や家族を思い出すという。私は実はあまり故郷や家族をいつも思い出していないと思う。でも、日本語の意味では、その昔の経験とかを思い出すのは、たまにあると思う。例えば、高校の片想いを振り返ることとか。

(3) 高校生活に関するライフストーリー

Lさんは高校の時代に、高校恋愛を経験しなかったが、高校3年間ずっと片思いだった男性がいた。彼女は高校1年生の時、相手に告白して直接的に拒否されていなかったが、高校3年間ずっと相手に片思いしていた。それは彼女にとっては『秒速5センチメートル』を何回見ても彼女の心の琴線に触れた理由となる。

Lさんの考え方は少々日本人の古参ファンのJさんと似ている。Jさんは『君の名は。』のストーリーを架空のストーリーに捉えて、『秒速5センチメートル』が現実の恋愛に近いと考えていると述べた。

Lさんは中学校、高校時代に、塾に通ったことがあった。高校生のアルバイトは良いと感じている。その理由について、

学校の学生以外の人と知り合うようになれるから、お金を管理する意識も勉強できるし、自立する意識も身につけられる。それは中国人の学生には欠いているものだ。

と説明した。

Lさんは、日本文学が好きだと述べた。彼女は中学校の時から、中国語に訳された村上春樹と東野圭吾の小説を読み始めた。

3.3.12 Nさん

Nさんは、20歳の中国人女性である。Nさんは、現在中国Q専門学校の会計学の1年生である。

(1) 新海作品の愛好者としての自身の新海作品に接触した経験について

Nさんは、『君の名は。』が上映される前、女性の親友から『秒速5センチメートル』のような新海作品を知るようになり、見たいという気持ちを持っていたが、実際に行動に移されたのが『君の名は。』である。2016年、新海作品が中国で上映された時、彼女は塾の授業が終わった後、前述した親友と一緒に映画館に見に行った。

また、『君の名は。』を見た後、『秒速5センチメートル』、『クロスロード』しか見ていない。それゆえ、Nさんは新海誠の新規ファンだと考えられる。一番好きな新海作品は何だと聞かれて、彼女は『君の名は。』だと答えた。その理由について、彼女は以下のように語った。

Nさん：まず、画面がすごく綺麗だ。映画ポスターを自分のスマホのバックグラウンドに設定した。他には、ストーリーが考えさせられるから。そういう点は他

の青春恋愛作品にはない。あと、赤い糸を通じて時空の転換をされるストーリーは最初は理解できない。なんの話なのかなって家に帰る間ずっと考えていた。そして、映画館で2回目を見た。

『君の名は。』をより高く評価した一方、他の新海作品についての感想はどのようなものかと質問した際、彼女は、

親友の女性は日本アニメ作品のファンだから、彼女から過去の新海作品のあらすじとかを聞いた。面白いと思ったが、なかなか見るチャンスがない。

と答えた。なぜ面白いと感じつつ視聴するチャンスがないのかという質問に彼女は、

Nさん：昔の新海作品はネットでしか見られない。中学校の時、両親は私に勉強をさせていたため、私のネット利用を禁止した。だから、見るチャンスがなかった。でも、『君の名は。』が映画館に上映していたから。あのとき、ちょうどクリスマスイブで、塾の授業が終わってから、(筆者補：前述した)友達と一緒に映画館に見に行った。

—：クリスマスイブに映画館に『君の名は。』を見に行ったことを親に教えましたか？

Nさん：はい。中学生、高校生とき、親は私の恋愛を禁止していたが、友達と一緒に遊ぶことを禁止していなかった。

と説明した。彼女の話の踏まえて、Nさんは『君の名は。』の前の作品をみたい気持ちよりは、親からの規制を守ることを最優先した、ということがわかった。

(2) 滅びの美に関する意識

Nさんは滅びの美を備えた『秒速5センチメートル』より『君の名は。』の方をより高く評価した。また、Nさんは、桜が好きではない。散り際の桜の花びらは空を舞うことも好きではない。Nさんは滅びの美に関する意識がないと考えられる。Nさんは、滅びの美も知らない。Nさんは、作品の終わりの嗜好について、ハッピーエンディングの方が好きと語った。

滅びてゆくものの美しさを感じる、ノスタルジックな気分になれることについて、Nさんは、「好きではない」と語ったが、「たまに中学校時代の元彼を思い出した。」と補充した。

(3) 高校生活に関するライフストーリー

Nさんは、高校の3年生のときに初めて異性と交際した。相手はクラスのクラスメートである。なおNさんの両親は彼女の中学校・高校の恋愛を禁止していたが、Nさんは親に自分の恋愛経験を話していない。よって大っぴらに学校恋愛ができる日本の高校生生活に憧れを持っていた。Nさんは、

中学生、高校生時代に恋愛したほうがよかったと思う。専門学校に入って、純粋な恋愛みたいなものがないと思う。告白されても、キュンとする気持ちが全くない。たまに、中学時代の彼氏との交際経験を思い出したが、その恋自体を思い出すわけではない。あのとき、胸キュンができたことを思い出す。

勉強面については、Nさんは中学生・高校生の時、塾に通ったことがある。一方、Nさんは高校時代にバイトしなかったが、高校生のバイトについて、いいと感じている。「お金をもらえるし、友達と遊ぶ資金が得られるから、もっと自由に学校生活を体験できる」と説明した。

第4章 考察

今回の調査対象者の語りから、新海誠作品のファンの中で、ファンになった時期によって、『君の名は。』や『君の名は。』の前の新海作品に対する評価と、滅びの美に関する意識有無において、乖離が存在する。また、高校生活について、日中の差異がある。それを踏まえて、以下では、調査対象者を古参ファン・新規ファン（『君の名は。』から新海作品に触れた人、及び、『君の名は。』のみ新海作品に触れた人）の縦軸と、中国人・日本人の横軸からなるマトリックスで分けて、調査結果にもとづく分析・考察を行っていききたい。

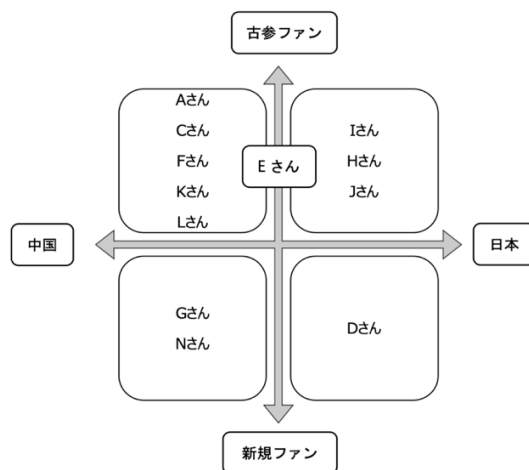


図2：調査対象者の概要

4.1 古参ファンと新規ファンとの受け取り方の比較

本研究で得られた結果の一つとして、滅びの美に関する意識の有無と「より好きな新海作品」に関する考え方において、日中の差よりも新規ファンと古参ファンの差が大きいことがわかった。加えて、新海作品への深い理解に貢献するような文化資本を備えるファンは、持ち前の鑑賞力によって同作品に文学性を見出したり、アニメ映像を玩味したり、技術批評さえしたりする傾向が見られた。

前述した1.1.3.1のように、社会生活において“文化資本”は、一種の資本のように機能している文化的要素のことである。本研究では、厳密な意味での文化資本というよりは、新海誠作品の理解に貢献する要素を文化資本と捉え、それらを用いて調査対象者の語りを分析した。また、上記の文化資本を持つ者とそうでない者の区分は、以下の3つの項目に従って行った。

- ① 蔵書等に着目した「客体化された形態」：本を購入・收藏する、コンテンツの関連グッズを購入・收藏する等；
- ② 学歴等に着目した「制度化された形態」：日本・海外の上位大学に通う、日本語・英語などの語学資格を保有する等；
- ③ 言語の使い方や美的趣向や読書経験等に着目した「身体化された形態」：純文学を読む、視聴後にコンテンツの背景を深く掘り下げる文章を読む行動等。

以上の項目の中でもとりわけ②③は、その人自身の個性・内面・持ち味を形作る側面が現実的に強いと思われる。したがって、②③を備える際は①と比べても高い文化資本を備えると判断した。

4.1.1 「より好きな新海作品」における齟齬

研究背景で述べたとおり、『君の名は。』はそれまでのものと区別できる新海作品として、新海誠のファンが急増した一方、批判も殺到した。そこで、『君の名は。』と『君の名は。』の前の作品に関する考え方を軸にすると、12名の調査対象者を「『君の名は。』がより良い」と「『君の名は。』の前の新海作品がより良い」、「『君の名は。』の0前の作品を見ようとしなない」という3つのグループに分けることができる。

具体的には、「『君の名は。』がより良い」グループはGさん、Nさん、Iさんからなる。そして、「『君の名は。』の前の新海作品がより良い」グループはAさん、Bさん、Cさん、Fさん、Kさん、Lさん、Hさん、Jさん、Eさんである。「『君の名は。』の前の作品を見ようとしなない」には、Dさん含まれる。

以上を踏まえて、日中の高校生活や、国文学の思想等の文化的背景が異なるにも関わらず、『君の名は。』の前の新海作品をより好むと語った人の多くは新海誠の古参ファンである。

4.1.2 『君の名は。』の前作をより高く評価した理由の分類

古参ファンと新規ファンの中で『君の名は。』と『秒速5センチメートル』のどちらをより高く評価するかには乖離が存在する。古参ファンはIさんを除く5名がいずれも『秒速5センチメートル』を『君の名は。』よりも高く評価している。新海誠の古参ファンの多くは『君の名は。』の前の新海作品をより好むと語った。その理由は大まかに以下の3点に分類できた。

第一に、『君の名は。』は商業主義に巻き込まれ、大衆という不特定多数の人々に受け止められたことに気づいてしまう、という理由である。具体的な語りを引用すると、例えば、日本人男性古参ファンであるJさんは以下のように語った。

Jさん：だって、新海、半分冗談で言われているけど、『君の名は。』が出るまでは、新海の作品っていうのは、モテない男の心理描写、理想を書いたものだってことが言われているじゃん。

—：そういう話がありますか？

Jさん：『君の名は。』になって、そういうチャライ、チャライプロデューサーが入ってきて、こういうのは（『秒速5センチメートル』『言の葉の庭』みたくの作品を指す）一般人には受けないから、もっと、イケメンな感じの描写をしろってことで、変わった、変えられたみたいな。噂だけどね。噂というか、そういう冗談みたいな。

Jさん：いや、そうだよ、多分君の名はで、そういう敏腕プロデューサーが入ったから、あんなに全国ヒットしたんだと思うよ。

という語りや、中国人女性古参ファンであるLさんの、

Lさん：たくさんの人は、『君の名は。』のポスターをスマホのバックグラウンドにしているのではないのか。でも、私は絶対そうしないし、『君の名は。』はまあま

あだと思って、好きだとは言えないからだ。
という語りにも現れていた。

また、中でも中国人男性古参ファンであるKさんは、
昔の新海作品は『君の名は。』と違い、製作コストがかからなかったと思う。
と語り、長い間の古参ファンとして、『君の名は。』の前の新海作品に見られた新海誠らし
さとに齟齬を感じたことが分かった。

2つ目の理由として、現実性・写実性の要素をもつ『君の名は。』の前の作品への共感性
や共鳴性がある。『君の名は。』の前の作品には、思春期の男女のすれ違いや、報われない
恋等のストーリーがある。それは自分の高校時代の恋・片想いや、すれ違い・報われない
恋の経験を思い出せた。

『君の名は。』の前の作品である『秒速5センチメートル』を見た際に共感を覚えたこ
とについて、Jさんは、以下のように語った。

一：内面の動きに関する描写に共感を覚えたことがありますか？

Jさん：うん。えっとね、あの、最後の場面だけかな。

一：最後の場面？

Jさん：東京でさ、昔あかりっぽい人を見かけたけど、踏切が閉まっちゃって、
開いたときには、もういなかったみたいなところは、ああ、そういう気持ちに分
かるなって思った。

また、Lさんは、『秒速5センチメートル』のストーリーは自分の成就しなかった、報わ
れなかった高校時代の片思い経験を思い出させるものだったと語った。具体的にLさんは
以下のように語った。

Lさん：『君の名は。』の前の作品がより好きだ。その中でも、一番好きな作品は
『秒速5センチメートル』だ。高校生の時に、それを見てすごく感動した。スト
ーリーは現実の生活と近くて、特に報われない恋愛だ。あれは私の高校時代の片
思い経験を思い出させた。私は3年間ずっと同じの男子同級生に片思いした。で
も彼には好きな相手がいって、結局、その気持ちが言えなくて、我慢していた。最
後のシーンも、桜がパッと咲いていて、落ちて、電車は主人公らの間を通ってい
た。

3つ目の理由として、『君の名は。』よりも前の作品は人に感傷的な気持ちに浸れる「場
所」を提供した。具体的には、日本人男性の古参ファンHさんが、以下のように語った。

Hさん：結局、まあ、話は先生みたい人、ちょっと結局なにか諦めることになっ
たり、その日は全部救われるわけではない、みたいな話があったり、それは割
と、良かったな。まあ、だから、そういう、まあ、『秒速5センチメートル』は
結局、第三話では、こう、昔ね、好きだったこととかを、こういう話だったりす
るじゃないですか。そういうところが、新海誠なりの思いというか、まあ、そう
いうところに浸っているというのが、彼はいいと思うんだけど、そういう感傷的
なところが。浸るのが好き、とか、そういう気持ちが見えたので。いわゆる『星
を追う子供』ってジブリっぽいような絵で、なんかそういう、絵柄的にはそうい
うポップなところもあるんだけど、結局そう、結末的にはやっぱり新海誠らし
いなところを感じ取ったなど、僕は思う。何だ、こう、感傷的なところへ
のこう、感傷的なところに対する、なんだろう、浸るところのこう、まあ一種の気

持ち悪さみたいところが新海誠らしさだなあと、僕は思っていたりしたんだけど、『君の名は。』ちょっと、そこら辺はなんか、わりと転換があったのかなあみたいな気持ちはあった。

—：転換？

H：なんかあんまり、『君の名は。』って、そう、いわゆる『秒速5』における最後のこう、踏切の向こうに明里はいないみたいな、ああいうふうな感傷的な部分はあるかなと、僕は思っていて。だからそういうところは転換があったのかなと。

4.1.3 滅びの美に関する意識における齟齬

上記などを踏まえ、滅びの美に関する意識の有無を軸とすると、12名の調査対象者は「意識あり」と「意識ない」という2つのグループに分けられる。「意識あり」グループはAさん、Bさん、Cさん、Fさん、Kさん、Lさん、Iさん、Hさん、Jさん、Eさんから成り立ったものである。Gさん、Nさん、Dさんは「滅びの意識ない」に当てはまる。滅びの美において日中の差よりも古参新規の差の方が大きくなったことがわかった。

日中で滅びの美に対する意識の差は第四章冒頭でのマトリックスの古参・新規ファンの軸に重なり合う。したがって、滅びの美については、日中の差よりも新規ファンと古参ファンの差が大きいことがわかった。

滅びの美の意識の指標として、散る桜への意識・滅びの美という言葉への認知・そして、unhappy ending 志向の有無の3つを想定した。unhappy ending については当初の予想とは逆に、古参ファンの多くが否定した。しかし、古参ファンの多くは散り際の桜が好きということから、彼らが滅びの美をある程度意識していることが示唆される。実際に滅びの美を肯定的に評価しているのは、Fさん、Hさん、Eさんのみで中国人1名日本人2名であるが、このうちEさんは小学校から大学まで中国で過ごしたため文化的には日中のハーフのような位置づけの人物であるので、日本人と中国人で結果の差が比較的少ないと言える。日本では過去の作品も自由に視聴できる一方、Dさんのような日本人でも『君の名は。』しか見たことがないファンが多い。中国の新海誠ファンも、日本の視聴者と同様にアニメ映画の内容について詳細な作品分析を行っている。

また、古参ファンは商業主義に巻き込まれた『君の名は。』よりも『秒速5センチメートル』を高く評価した。これは古参ファンの反商業主義を示すとともに、彼らが新海作品の滅びの美を理解していることを示す。桜が散る場面の強調やその他の部分で、前者よりも後者の方が滅びの美を強く打ち出した作品であることから、この結果は頷ける。

マトリックスで分析したが、滅びの美関連の指標については、中国人と日本人の横軸での差はほとんど無く、新規ファンと古参ファンの間での差が大きいことが判明した。日中の差のない理由の1つは中国人のFさんに、映画のファンサイトで新海映画のコメントをよく読み日本文化をそれによって吸収しているとの語りがあったことも挙げられる。また、日本人のIさんは滅びの美の概念は熟知しているが、それを「学問」として解釈することは否定的に捉えていることも関連している。Iさんはハッピーエンドの作品が非常に好きであり、滅びの美は彼の嗜好に合わないことは十分推測される。

4.1.4 古参ファンの文化資本を見出せる

新海誠の作品は、日本の高校生活と都市生活や、男女のすれ違い等をモチーフにされている。新海作品には、文学性がある、という一因が、彼の作品を醸成した文化資本にある。彼は中央大学の国文学専攻で江戸ノスタルジアの文学とされる永井荷風を卒論に、また、影響を受けた作品と聞かれた際、三島由紀夫（永井の親戚でもある）を純文学作家に語ったこともあった。そうした彼の作品には滅びの美を表象にした散り際の桜や叶えない初恋、廃墟などのシーンカットがしばしば見られる。

今回の調査結果により、文化資本を備えるファンは持ち前の鑑賞力によって新海作品に文学性を見いだしたり、アニメ映像を玩味したり、技術批評さえしたりする傾向がある。

調査対象者の多くは学歴が比較的高く文化資本が豊かだが、高校時代の恋愛には積極的である。他方、多くの調査対象者は、高い学歴を得ることを高校時代強く意識し、恋愛に消極的あるいは親から否定的に教育されてきた。例えば、日本人男性の古参ファンJさんと日中ハーフの女性の古参ファンEさん、この二人はともに滅びの美を理解し、Jさんは、新海の『秒速5センチメートル』の作品をもてない男の心境を巧みに語っていると、述べていた。学歴を強く意識する人ほど、新海作品を深く理解できているともいえる。それは彼らが受け手として、新海作品から琴線に触れたと感じたと説明できる。

4.2 高校生活について

高校生活については、大きく日中で差があり、そのことを中国の調査対象者は強く意識するものの、基本的に日本の高校生の恋愛可能な青春に憧れる気持ちが強いことが語りからも窺える。

4.2.1 見たい気持ちを最優先に

本研究の中国人対象者と中国の中学校・高校で過ごした日本人のEさんの語りによれば、中国の高校生活では、親に高校時代の恋を隠す、高校時代の恋が反対されるケースがよくみられた。それゆえに、中国人視聴者から見ると、高校時代に大っぴらに恋愛することは不自然であり、無意識に他人・彼らの物語として取り上げられがちである。

4.2.2 新海作品のファンの恋愛観における学歴への捉え方

日中において高校生活や大学入学試験の内容は大きく異なる。しかし、調査対象者の語りにおいて、恋愛観における学歴への捉え方に共通点が見られた。共通点により、ファンの恋愛観を大きく3つに分類した。

1つ目は、高校時代の恋愛において、学業の成績向上を重視する考え方である。受験勉強をテーマにした新海作品を高く評価した人にこの考え方が見られた。この傾向に該当するのは新海誠の中国人女性の新規ファンの2人(GさんとNさん)である。両者とも『君の名は。』を映画館で鑑賞した後に、新海誠とZ会のコラボレーションCM映像の『クロスロード』を視聴して、高く評価した。両者に中学校・高校の恋愛経験を質問したところ、Gさんは、

クロスロードはすごく面白い作品だ。やっぱり高校の時には、一緒に成長できる、勉強できる仲間みたいな恋人がいればよかったと思った。そうしたら、親にも禁止されない、叱られない。

と語った。前述した3.3.6が示したように、Gさんは高校時代に交際を経験したが、両親と学校の先生に反対された。こうした経験を持った彼女にとっては、一緒に勉強できる恋人は両親や学校の規制から逃げ出す方法の1つであると考えられる。また、Nさんは、

私にとって、一番印象深い新海作品は『クロスロード』だ。違う場所にいる少年少女が勉強して、東京の大学に進学した話だ。それとも、人生の運命の交差もできた。

『クロスロード』のような少年少女が受験勉強を通じ、それぞれの人生の運命が交差する話が受け取られた背景には、学歴を重視した意識が存在するのではないのかと推測できる。

また、今回の調査では、この傾向に該当する日本人の調査対象者と、中国人の古参ファンと、中国人男性の新規ファンがいない。それは本研究の調査対象者の集まり自体の限界の1つとなるので、今後の課題として検討しようとする。

2つ目は、「高い学歴を手に入れる人は高校時代は恋愛を経験しない」という通念を持ち、高校恋愛を消極的に捉える考え方である。この考え方に該当する対象者は、新海作品に恋愛の理想像を見出していた。日本人男性古参ファンであるJさんは、『秒速5センチメートル』について、「なぜ、あの男性主人公はあんなにモテるのか、何もできないのに、ムカついた。」と語った。また、自分の恋愛観や『秒速5センチメートル』に対して以下のように説明した。

Jさん：ネットに書いていて、2ちゃんに書いていて、要は『秒速5センチメートル』に代表されるような恋愛描写は、なんかちょっと、そういう恋愛経験がない人、恋愛経験がない人の理想を描いたような恋愛で、なんかおかしいみたいな。

こうした考え方を持ったJさんは、『秒速5センチメートル』を見た高校時代に恋愛経験がない。さらに、『君の名は。』より、『秒速5センチメートル』の女性主人公はオタクである自分にとって理想的なヒロインだと語った。また高校時代に恋愛経験がない理由について以下のように述べた。

Jさん：中国では、女子寮の前に行って、蠟燭立てて、男子学生は好きですって叫ぶんでしょう。そこまで、過激じゃないけど、日本にも、例えば、そういう3回デートしたら、告白だとか、ここで告白だとか、みたいな作法が、なんかそういう空気があって…

このような恋愛テクニックや暗黙のルールに従えないことが、高校時代に恋愛経験がない理由だと述べた。

また、Jさんは「良い学歴を手に入れる人は高校時代に恋愛経験がない」と考える。具体的な語りは以下の通りである。

一：だから、「早恋」はあまりしないで、でも、日本の場合は、学校恋愛は禁止されていないでしょう。

Jさん：大体、ちゃんとした大学に行くような学生って高校の時、あまり彼女がいない。いる人はいる、いる人はいたり、都会のそういう勉強もできて、簡単に東大に入っちゃうような人はいたりとかする。そういうある特定の人にはいるけど、おそらく多くの人にはそういない、いないと思う。大体さ、勉強できる学校の女の子って、可愛くないじゃん。

以上より、Jさんの恋愛観には学歴を重視する価値観が見られると考えられる。

3つ目は、恋愛において学歴への意識は特になくという考え方である。この考え方に該当する人は「恋愛のテクニック」や「異性との振る舞い方」の勉強のために、新海作品を見ていた。具体的には、中国人男性の古参ファンAさんが次のように語っている。

Aさん：最初に、新海作品を見たきっかけの1つとして、新海作品は恋愛の教科書みたいな存在だっていう噂を聞いた。恋愛のテクニックを知りたい。

事実、新海作品の『秒速5センチメートル』は恋愛のお手本として捉えられることがある。JさんとAさんの回答から、古参ファンほど『君の名は。』以前の作品である『秒速5センチメートル』に理想的な恋愛像を見出すと考えられる。

4.3 アニメ映画の文学性と民主性

遠藤（2008）は日本アニメが中国青年たちに「民主主義」と「市場経済」の良いところを知らぬ間に味わわせていたと論じた。また、アメリカ映画と比べると、価値観の主張が強くないからこそ、中国当局によって規制が緩く、野放しにされがちだという。しかし、遠藤の研究対象者となった中国人青年たちは80年代に生まれた人であり、90年代以降に生まれた中国人青年たちは、彼が数年間の中国の市場化による急速な経済成長に恵まれて育ってきた。したがって、こうした日本アニメに「市場経済」の良い要素を味わわせる役割があってそれが必ずしも機能するとはいえない。

4.3.1 限界ありの民主性とその点火の役割

今回の中国人の調査対象者の中には、KさんとLさんはアメリカの大学で教育を受けたことがある。しかも、少なくとも彼らはアメリカ政治学について勉強している。彼らに政治意識を質問したところ、2人とも「民主的な体制がより良い」と述べた。どこからその意識を生じたかと彼らに質問したところKさんは、

中国で生活すると、政府からのコンテンツ規制によく気付かされる。私の両親は他の両親と比べると、かなり緩いタイプだ。中学校のときから、自分の視聴活動を制限するのは両親からの管理ではないと気づいた。青年たちが好きなコンテンツを視聴する権利を持つべきだ。

と述べた。Lさんは、

日本アニメは私が豊かな世界への憧れを生じる一因だ。小学校のとき、私の両親は高い経済力があるとはいえなかった。3人は狭く何もない部屋に囲まれていた。そのとき、『爆走兄弟レッツ&ゴー!!』のような日本のアニメ作品をみて、日本の普通の家庭に育てられてきた子供でもミニ四駆を持っていると気づいた。羨ましいと思う。新海作品にはあまり関係がないと思う。でも、高校生でも学校では自由に恋愛できる、アルバイトもできる、自分でお金が稼げる。それはすごくいいと思う。

と述べた。そして、2人に政治活動に参加したことの有無について質問した。Kさんは、アメリカの大学院に通ったとき、知り合いのアメリカ人学生に誘われたことがあった、好奇心を持って、反トランプデモとか他のテーマに関するデモに参加したことがある。

と述べた。Lさんは、

Public Relationship 専攻だけれども、講義以外の政治に関する討論に参加したことがない。私のアメリカ人同級生でも、あまり政治に関して、興味がなさそうだ。皆は卒業してから、できるだけエンターテイメントの会社に就職しようとする。

と述べた。2人の語りを踏まえ、日本アニメ作品は中国青年たちに「民主主義」と「市場経済」の豊かさを味わわせる、あるいは青年たちの自由な高校生活へ憧れを持つきっかけ、中国の市場主義には限界があることに気づかせる役割を果たすと考えられる。

4.3.2 アニメ映画の文学性

西田（2017）によれば、新海誠の作品には、村上春樹からの影響が少なからずあると検証しており、アニメ作品でも文学性があると論じた。今回の調査対象の中には、Lさんは高校生のとき、村上春樹の小説を愛読した。加えて、Lさんは新海作品に「文芸性」を見出したと述べた。これらを踏まえて、アニメ映画でも文学性も表せると考えられる。

第5章 結論

5.1 結論

本研究では、日中若者の受け手の琴線に触れた、『君の名は。』や『秒速5センチメートル』のような新海作品について、質的調査の手法を用い、受け手各々のライフストーリーに基づいて、滅びの美をはじめとする「文芸性」を備えた、中国人の若者が日本の恋愛やバイトが自由となる高校生活をモチーフにした日本映画を受容した仕組みを、日本人の若者の視聴者との比較によって明らかになった。その結果として、先述のマトリックスに触れながら、以下の2点が挙げられる。

1つ目は、滅びの美については、日中の差よりも新規ファンと古参ファンの差異が大きいという点である。新海誠及び彼の作品の古参ファンは商業主義に巻き込まれた『君の名は。』よりも、『秒速5センチメートル』のような『君の名は。』よりも前の作品を高く評価した。これは古参ファンが新海作品の滅びの美を理解していることも示す。なぜならば、『秒速5センチメートル』の中で、桜が散る場面や「男女のすれ違い・報われない恋・閉ざされた恋」が強調されたからである。『君の名は。』よりも『秒速5センチメートル』が滅びの美を強く打ち出した作品であると見られる。それはこの結果は頷ける。

加えて、文化資本を備えるファンは持ち前の鑑賞力によって新海作品に文学性を見いだしたり、アニメ映像を玩味したり、技術批評さえしたりする傾向がある。

2つ目は、高校生活については、大きく日中で差異があり、そのことを中国の調査対象者は強く意識するものの、基本的に日本の高校生の自由な恋愛や、バイトができる青春に憧れる気持ちが強いことが語りからも窺える。また、日中の古参ファンはそれまでの新海作品の「恋」を純粋な恋愛として捉えて受け止めている。

5.2 謝辞

本論文の執筆にあたり、沢山の方々にご支援いただきました。本当にありがとうございます。

まず、研究生のときからずっとお世話になった、主指導教員である後藤先生に心から深く感謝申し上げます。研究の着想・調査・執筆で丁寧なご指導と、社会学やメディア学や日本哲学・思想に関する多様な知識をいただきました。本論文の作成に限らず、自分の人生における読書活動や映画鑑賞にも影響を受けました。

次に、いつも貴重なご指導とアドバイスを賜りました照山先生に感謝申し上げます。

最後に、ゼミの皆様には多くのご支援をいただきました。お礼申し上げます。いつも私の日本語をチェックしてくれて、日本に関する面白い話、研究を刺激する発想等をシェアしていただきありがとうございました。

5.3 参考文献

1. Alexander Zahlten. Alexander Zahlten, Doraemon and Your Name in China: the complicated business of mediatized memory in East Asia. Screen. 2019, 60(2),

p. 311-321.

2. 特集*新海誠：『ほしのこえ』から『君の名は。』へ。ユリイカ。2016.
3. “君の名は。：ヒットの原動力は高校生 3割が劇場に足運ぶ”。MANTANWEB.
<https://mantan-web.jp/article/20170609dog00m200012000c.html>, (参照 2021-01-01).
4. 万衆 羅欣玥. 論動画電影中的運動—浅谈新海誠执导作品《你的名字》. 教育现代化. 2019, 39.
5. 伊藤守編. よくわかるメディア・スタディーズ. 第2版, ミネルヴァ書房, 2015.
6. 南龙瑞, 郭鴻. 新海誠的代表作《你的名字》の芸術成就及其成因探究. 智庫時代. 2018.
7. “「君の名は。」が多くの若年層を惹き付ける魅力とは・・・?”. TesTee Lab. 2016/10/03. <https://lab.testee.co/kiminonaha-result>, (参照 2021-1-1).
8. 武松佑季. “『天気の子』新海誠監督「何か大きな石を投げてどんな模様の波紋が立つのかを観測するような、エンタメとしては王道だけど、予定調和ではなく賛否分かれる映画です””. 週プレNEWS. 2019年08月12日.
<https://wpb.shueisha.co.jp/news/entertainment/2019/08/12/109509/>, (accessed 2021-1-1).
9. 物語のサンプリング：村上春樹と新海誠. 富山大学人間発達科学部紀要. 2017, 11(3), p. 59-66.
10. 河村政敏. 滅びの美学:太宰治と三島由紀夫. 至文堂, 1992.
11. 三島由紀夫. 新恋愛講座. 筑摩書房, 1995.
12. 久野収編. 中井正一全集. 美術出版社, 1981, 68p.